

有 価 証 券 報 告 書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成26年9月1日
(第45期) 至 平成27年8月31日

株式会社ブラップジャパン

(E05498)

第45期（自平成26年9月1日 至平成27年8月31日）

有価証券報告書

- 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書に添付された監査報告書及び上記の有価証券報告書と併せて提出した内部統制報告書・確認書を末尾に綴じ込んでおります。

株式会社ブラップジャパン

目 次

頁

第45期 有価証券報告書

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【沿革】	4
3 【事業の内容】	5
4 【関係会社の状況】	7
5 【従業員の状況】	9
第2 【事業の状況】	10
1 【業績等の概要】	10
2 【外注、受注及び販売の状況】	11
3 【対処すべき課題】	12
4 【事業等のリスク】	12
5 【経営上の重要な契約等】	14
6 【研究開発活動】	14
7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	15
第3 【設備の状況】	17
1 【設備投資等の概要】	17
2 【主要な設備の状況】	17
3 【設備の新設、除却等の計画】	17
第4 【提出会社の状況】	18
1 【株式等の状況】	18
2 【自己株式の取得等の状況】	21
3 【配当政策】	22
4 【株価の推移】	22
5 【役員の状況】	23
6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】	25
第5 【経理の状況】	32
1 【連結財務諸表等】	33
2 【財務諸表等】	60
第6 【提出会社の株式事務の概要】	73
第7 【提出会社の参考情報】	74
1 【提出会社の親会社等の情報】	74
2 【その他の参考情報】	74
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	75

監査報告書

内部統制報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年11月26日
【事業年度】	第45期（自平成26年9月1日 至平成27年8月31日）
【会社名】	株式会社ブラップジャパン
【英訳名】	PRAP Japan, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 鈴木 勇 夫
【本店の所在の場所】	東京都港区赤坂一丁目12番32号 アーク森ビル
【電話番号】	03(4580)9111
【事務連絡者氏名】	経営企画室室長 増 田 光 昭
【最寄りの連絡場所】	東京都港区赤坂一丁目12番32号 アーク森ビル
【電話番号】	03(4580)9111
【事務連絡者氏名】	経営企画室室長 増 田 光 昭
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第41期	第42期	第43期	第44期	第45期
決算年月	平成23年 8 月	平成24年 8 月	平成25年 8 月	平成26年 8 月	平成27年 8 月
売上高 (千円)	4, 063, 035	4, 254, 158	4, 810, 497	5, 455, 910	5, 433, 737
経常利益 (千円)	427, 667	447, 230	591, 189	657, 221	747, 257
当期純利益 (千円)	171, 800	214, 170	313, 726	320, 307	390, 744
包括利益 (千円)	196, 478	237, 749	430, 231	396, 452	545, 713
純資産額 (千円)	2, 223, 671	2, 343, 775	2, 636, 651	2, 865, 347	3, 215, 431
総資産額 (千円)	3, 348, 609	3, 639, 267	4, 194, 910	4, 276, 452	4, 376, 090
1 株当たり純資産額 (円)	546. 10	574. 61	640. 49	696. 50	776. 99
1 株当たり当期純利益 (円)	41. 89	53. 59	78. 50	80. 15	97. 78
潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	65. 2	63. 1	61. 0	65. 1	71. 0
自己資本利益率 (%)	7. 7	9. 6	12. 9	12. 0	13. 3
株価収益率 (倍)	17. 1	12. 1	15. 9	12. 7	10. 8
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	163, 978	401, 468	405, 645	254, 226	450, 166
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△404, 411	△85, 919	108, 353	△19, 262	16, 660
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△303, 528	△120, 620	△239, 160	△142, 506	△266, 897
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	1, 472, 265	1, 667, 960	1, 986, 960	2, 081, 567	2, 332, 532
従業員数 (名)	257 [50]	257 [44]	263 [33]	259 [39]	275 [48]

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。
3 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第41期	第42期	第43期	第44期	第45期
決算年月	平成23年 8 月	平成24年 8 月	平成25年 8 月	平成26年 8 月	平成27年 8 月
売上高 (千円)	3, 034, 137	3, 233, 104	3, 294, 751	3, 436, 373	3, 355, 196
経常利益 (千円)	357, 167	371, 017	411, 471	451, 355	507, 326
当期純利益 (千円)	178, 058	212, 029	263, 719	274, 177	357, 226
資本金 (千円)	470, 783	470, 783	470, 783	470, 783	470, 783
発行済株式総数 (株)	4, 679, 010	4, 679, 010	4, 679, 010	4, 679, 010	4, 679, 010
純資産額 (千円)	2, 145, 310	2, 258, 460	2, 446, 996	2, 620, 001	2, 873, 436
総資産額 (千円)	3, 097, 454	3, 331, 829	3, 669, 051	3, 684, 975	3, 642, 595
1 株当たり純資産額 (円)	536. 81	565. 13	612. 32	655. 61	719. 03
1 株当たり配当額 (円)	23. 00	25. 00	27. 00	29. 00	31. 00
(内、1 株当たり 中間配当額) (円)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)
1 株当たり当期純利益 (円)	43. 42	53. 05	65. 99	68. 60	89. 39
潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益 (円)	－	－	－	－	－
自己資本比率 (%)	69. 3	67. 8	66. 7	71. 1	78. 9
自己資本利益率 (%)	8. 1	9. 6	11. 2	10. 8	13. 0
株価収益率 (倍)	16. 5	12. 3	18. 9	14. 8	11. 8
配当性向 (%)	53. 0	47. 1	40. 9	42. 3	34. 7
従業員数 (名)	174 [42]	175 [42]	175 [33]	170 [37]	182 [34]

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

3 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

2 【沿革】

年月	概要
昭和45年 9 月	株式会社ブラップジャパン(資本金1,000千円)を東京都港区南青山に設立
昭和48年 2 月	本社を東京都渋谷区渋谷 2 丁目に移転
昭和49年 3 月	株式会社新教育社(現 株式会社ブレインズ・カンパニー)を設立(現 連結子会社)
昭和53年 4 月	文化事業部を設置
昭和53年 6 月	本社を東京都渋谷区桜丘町に移転
昭和56年 4 月	企画開発部を設置
平成 3 年 4 月	国際部を設置
平成 8 年11月	本社を東京都渋谷区渋谷 3 丁目に移転
平成 9 年12月	コミュニケーションサービス本部、クリエイティブサービス本部、営業企画本部、管理本部の4本部制に組織変更 中国北京に北京普楽普公共関係策劃有限公司(現 北京普楽普公共関係顧問有限公司)を設立
平成11年11月	本社を東京都渋谷区渋谷 2 丁目に移転
平成12年 8 月	株式会社ブレインズ・カンパニーを100%子会社化
平成14年 1 月	WPP Group Plc. と資本及び「Principles of Partnership」を締結
平成17年 1 月	北京普楽普公共関係顧問有限公司との資本関係を解消、業務提携契約を締結
平成17年 7 月	株式会社ジャスダック証券取引所に株式を上場
平成18年11月	北京普楽普公共関係顧問有限公司の株式取得及び増資引受により議決権60%を保有し、連結子会社化
平成21年 3 月	株式会社旭エージェンシーの株式取得により議決権100%を保有し、連結子会社化
平成21年12月	株式会社ブレインズ・カンパニーが北京博瑞九如公共関係顧問有限公司の株式取得により議決権60%を保有し、連結子会社化
平成22年 4 月	株式会社ジャスダック証券取引所と株式会社大阪証券取引所の合併に伴い、株式会社大阪証券取引所(JASDAQ市場)に上場
平成22年10月	大阪証券取引所JASDAQ市場、同取引所ヘラクレス市場及び同取引所NEO市場の各市場の統合に伴い、当社株式は「大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)」に上場
平成23年12月	本社を東京都港区赤坂 1 丁目に移転
平成24年12月	ウィタンアソシエイツ株式会社の株式取得により議決権100%を保有し、連結子会社化
平成25年 7 月	株式会社大阪証券取引所と株式会社東京証券取引所グループの合併に伴い、株式会社東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)に上場

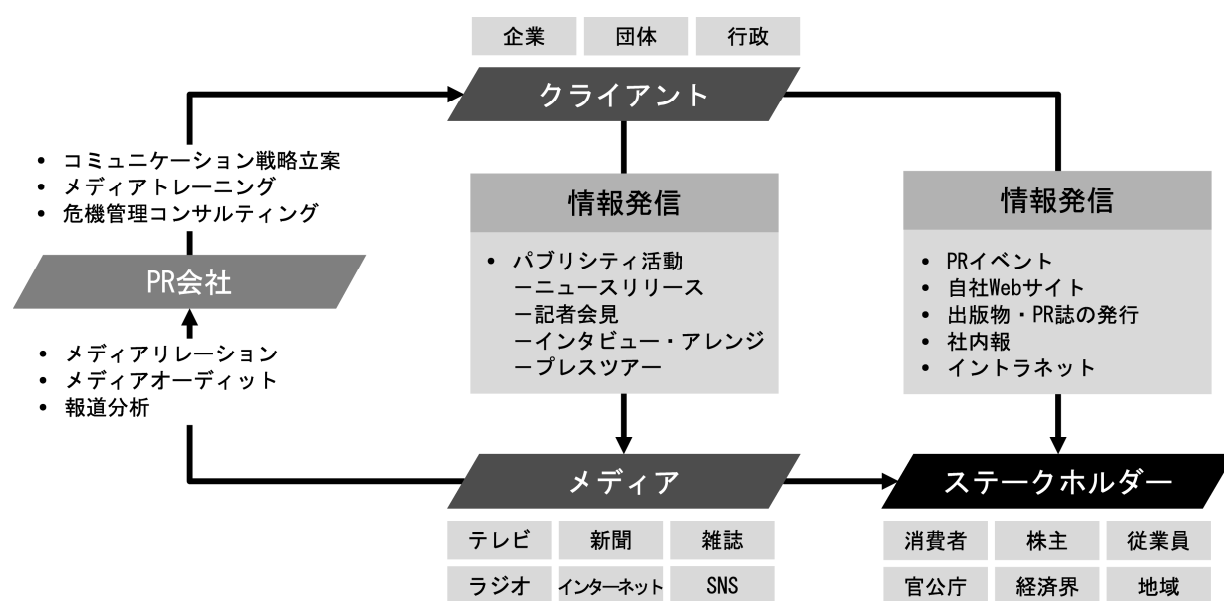
3 【事業の内容】

当社グループは平成27年8月31日現在、当社及び株式会社ブレインズ・カンパニー(連結子会社)、株式会社旭エージェンシー(連結子会社)、ウィタンアソシエイツ株式会社(連結子会社)、北京普樂普公共関係顧問有限公司(連結子会社)、北京博瑞九如公共関係顧問有限公司(連結子会社)により構成されており、企業の広報活動の支援・コンサルティング業務を中心としたPR事業を行っております。

PR事業は、企業・団体・行政の情報を効果的にステークホルダーに発信し、企業・団体・行政に対して良好なイメージを醸成し、信頼感や購買行動へとつなげていく事業であり、当社グループは様々なサービス・手法や業界随一のメディア情報を有し、そのクライアントに最適な広報戦略を立案し、提供しております。

中でも、メディア(新聞・雑誌・テレビ・ラジオ・インターネット)等を通じて、情報をステークホルダーへと到達させる手法は、パブリシティ活動と呼ばれ、クライアントが発信したい情報をメディアの特性やニーズに合わせ、収集・加工を行い、様々な手段を通じてメディアに発信、テレビのニュースや新聞記事として情報の受け手へクライアント情報を伝えていくものです。

〔PR業務イメージ図〕



パブリシティ活動は広告とは異なり、その情報提供が広告・CM枠ではなく、新聞・雑誌の記事やテレビの報道番組・情報番組内などを通じて伝えられるため、通常は、広告と比較して信頼度が高い情報として消費者に受け止められます。よって、企業等の広報活動においてPR会社の果たす役割は極めて重要となっています。また昨今は、テレビニュースや新聞記事だけではなく、口コミ等による第三者評価も影響力を持つようになり、これまでのマスメディアに加えて、オンラインメディアやソーシャルメディアといったインターネットメディアへの情報提供も積極的に行われるようになっています。

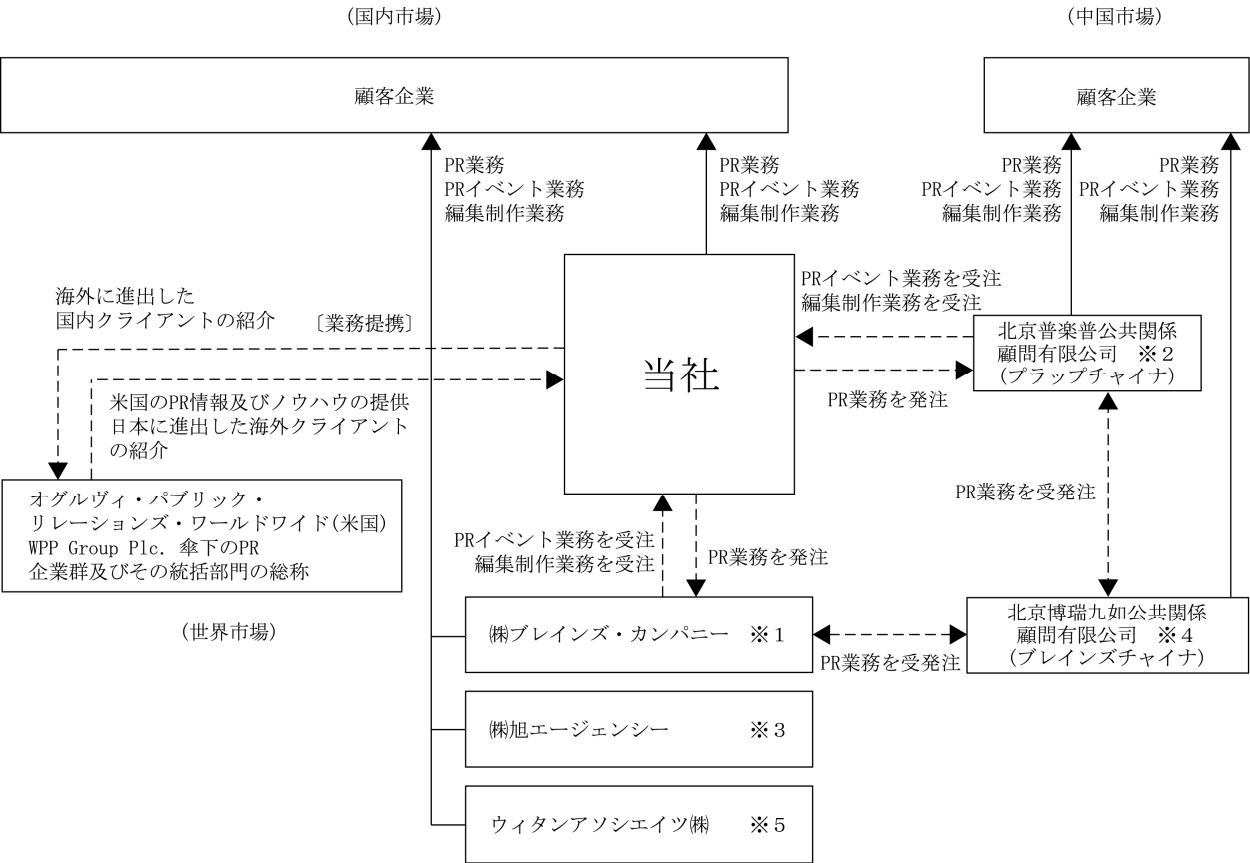
当社グループでは、広報コンサルティングおよびマスメディアとの強力なネットワークによるメディアリレーションを中核に、メディアトレーニング、ソーシャルメディア対応、PRイベント、Web制作、PR誌制作、PRポータル・サービスなど企業内外のコミュニケーションに関わる課題を解決するため、包括的な視点からサービスを有機的に結びつけ、クライアントに提供しています。

また、当社グループのPR事業における収益構造の概要としましては、クライアントとPR業務委託契約を締結し、基本的にはタイムチャージ（PR業務委託契約に記載された活動に対し、担当者が稼働した時間）による活動費（リテナー・フィー）を請求しております。

当社グループは、PR事業のみを行っているため、単一のセグメントのみを有しております。当社の主なサービス項目別業務内容は以下のとおりであります。

サービス項目	業務内容
○コミュニケーション業務上のサービス ・メディア・リレーション業務 ・コーポレート・コミュニケーション業務 ・マーケティング・コミュニケーション業務 ・インベスター・リレーション業務 ・インターナル・コミュニケーション業務 ・パブリック・アクセプタンス業務 ・イベント・コミュニケーション業務	クライアントとメディアの関係を持ち、ギブ・アンド・テイクの友好的関係を築き上げるためのPRの基礎となる活動です。 クライアントの企業戦略やトップの意思をステークホルダーに効率よく伝達することにより、最大限の効果を引き出すためのPR活動です。 クライアントの商品やサービスを効率よくターゲット層に認知させ、購買行動を促進させるためのPR活動です。 クライアントの企業価値を投資家に伝えるためのPR活動です。 クライアントの組織内における円滑な情報流通を促進することで、組織内の融和を図る一方、情報の共有化によりビジネス活動の活性化を図るためのPR活動です。 環境問題や公共インフラの整備など、立場や地域差による様々な利害の対立を調整し、最適のコンセンサスを導き出す活動です。 大規模のセミナー・展示会から少人数のプライベートセミナーや講演会にいたるまで、PRの視点に立ち、PR素材としてのイベントを企画実施いたします。
○デジタル関連のサービス ・デジタル・コミュニケーション業務 ・デジタルPRポータルサービス業務	オンラインメディアやソーシャルメディアといったインターネットメディアにおいてクライアントの情報が効果的に取り上げられるようなPR戦略を企画立案するコンサルティング業務です。 当社独自のデジタルPRの総合ポータルサイト「Digital PR Platform（デジタルPRプラットフォーム）」を利用し、日本の有力ニュースサイトへのプレスリリース配信・掲載サービスを提供するものです。
○コンサルティング業務上のサービス ・クライシス・コミュニケーション業務 ・コミュニケーション・トレーニング業務	クライアントが直面するであろう事故や事件等のリスク要因の抽出、分析から危機対応マニュアルの作成、シミュレーション・トレーニングの実施、そして実際に起きてしまったクライシスの際のメディア対応まで、クライシスから企業を守るための適切なコミュニケーション対応全般をサポートする活動です。 企業トップを対象に行うコミュニケーション・スキル向上のためのトレーニングです。クライシス・コミュニケーション・トレーニングやIRコミュニケーション・トレーニングなど、様々なケースを想定した実践さながらのトレーニングを行う活動です。

なお、当社グループの事業の系統図は、次のとおりであります。



(注) 1 →はグループ外との取引、----→はグループ内の取引であり、グループ内の取引には、金銭の貸借取引は含まれておりません。
2 ※1、※2、※3、※4、※5は連結子会社であります。

4 【関係会社の状況】

(平成27年8月31日現在)

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の 所有(被所有)割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有割合 (%)	
(連結子会社) (株)ブレインズ・カンパニー	東京都港区	百万円 10	コミュニケーション サービス	100.0	—	PR業務を当社発注 PRイベント業務を当社受注 PR編集制作業務を当社受注 役員の兼任…3名
(連結子会社) (株)旭エージェンシー	東京都港区	百万円 20	コミュニケーション サービス	100.0	—	PR業務を当社発注 PRイベント業務を当社受注 PR編集制作業務を当社受注 役員の兼任…2名
(連結子会社) ウィタンアソシ エイツ(株)	東京都港区	百万円 18	コミュニケーション サービス	100.0	—	PR業務を当社発注 PRイベント業務を当社受注 PR編集制作業務を当社受注 役員の兼任…一名
(連結子会社) 北京普樂普公共関 係顧問有限公司	中国 北京市	万USドル 37	コミュニケーション サービス	60.0	—	PR業務を当社発注 PR編集制作業務を当社発注 PRイベント業務を当社受注 PR編集制作業務を当社受注 役員の兼任…3名
(連結子会社) 北京博瑞九如公共 関係顧問有限公司	中国 北京市	万USドル 20	コミュニケーション サービス	60.0 (60.0)	— (—)	役員の兼任…2名

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の 所有(被所有)割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有割合 (%)	
(その他の関係会社) WPP Group Plc.	LONDON UK	百万stg ポンド 132	広告業	—	23.4 (23.4)	資本・業務提携

(注) 1 「議決権の所有(被所有)割合」の欄の()内は間接所有であり内数であります。

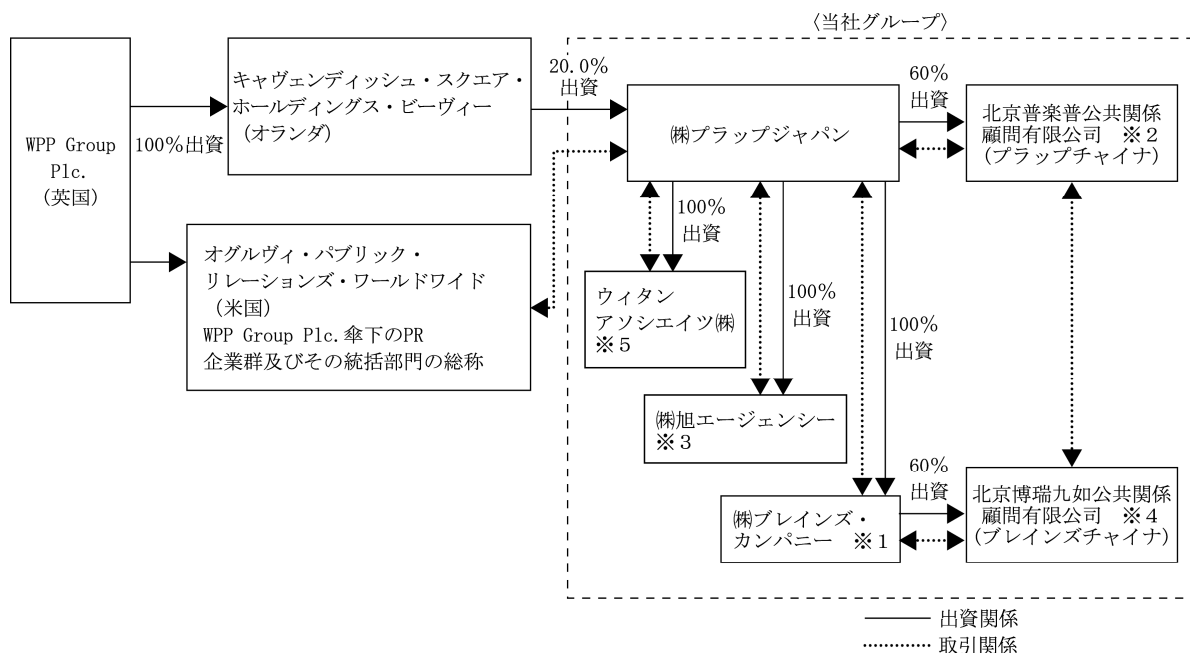
2 北京普樂普公共關係顧問有限公司については、売上高（連結会社相互間の内部売上高を除く）の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等 ① 売上高 1,113百万円
 ② 経常利益 172百万円
 ③ 当期純利益 124百万円
 ④ 純資産額 186百万円
 ⑤ 総資産額 542百万円

その他の関係会社であるWPP Group Plc.（以下W P P）は、平成14年1月22日付「Stock Purchase and Shareholders Agreement」の締結により、子会社である持株会社、Cavendish Square Holding BV(キャヴェンディッシュ・スクエア・ホールディングス・ビーヴィー)を通じて当社の株式を取得し、平成27年8月31日現在当社の株式 935,800株(持株比率20.0%)を保有しております。また、同社のPR部門であるオグルヴィ・パブリック・リレーションズ・ワールドワイドと当社は平成14年1月22日に「Principles of Partnership」の締結をいたしました。同契約の主な内容は、PR先進国である米国のPR情報及びノウハウの提供を当社が受けるとともに、当社が担当しているクライアントを当社に紹介するというものであります。

なお、当社グループとW P Pとの関係は、次のとおりであります。

○当社グループとWPP Group Plc. との関係図



(注) 1 WPP Group Plc. とキャヴェンディッシュ・スクエア・ホールディングス・ビーヴィーの間には、WPP Group Plc. の100%子会社が10数社ございます。

2 ※1、※2、※3、※4、※5は連結子会社であります。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

(平成27年8月31日現在)

従業員数(名)	275 (48)
---------	----------

- (注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数(パートタイマー、人材派遣会社からの派遣社員を含みます)は()内に最近1年間の平均人員を外数で記載しております。
- 2 当社グループの事業は単一セグメントであるため、セグメントごとの従業員数は記載しておりません。

(2) 提出会社の状況

(平成27年8月31日現在)

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
182 (34)	37.0	7.9	5,659,454

- (注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数(パートタイマー、人材派遣会社からの派遣社員を含みます)は()内に最近1年間の平均人員を外数で記載しております。
- 2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。(社会保険等の法定福利費及び通勤費等は含めておりません。)

(3) 労働組合の状況

当社グループでは労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度の日本経済は、政府や日銀における政策を背景とした円安・株価上昇を受け、雇用情勢の改善がみられるなど景気は緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら中国における景気の減速懸念を受け、世界経済の先行きは不透明な状況が続いています。

PR業界においては、市場規模の成長ほか、デジタルテクノロジーをインフラとする新たな市場の拡大により、その重要度、認知度は一層の高まりをみせており、従来の広報支援・代行業務だけでなく、独自のサービス展開やマーケティングと連携したPR手法など広がりをみせています。

当社単体においては、前期に受注した大型のプロジェクト業務の契約満了等に伴い、前期からは若干のマイナスとなりました。しかしながら受注獲得件数は増加傾向にあり、通年を通してPRイベントや新製品発表など、リテイナー契約を結んでいる既存クライアントからのプロジェクト業務を複数受注しています。また、期初に想定していなかった危機管理広報コンサルティング案件の受注が安定的な収益の確保に寄与したほか、日本への中国人観光客をターゲットとしたPR案件も複数受注し、グループ会社を含めた経営資源を柔軟に活用した最適なサービス体制を組むことで、顧客ニーズにあわせたPR活動を実施してまいりました。

新規サービスとしては、顧客ニーズの高いデジタルインフラやソーシャルメディア環境にあわせたPR施策の提案にあわせて「ソーシャルリスク対策支援プログラム」、「DTCサイトかんたん構築パッケージ」などのサービスを開発し、従来からのサービスに加えた提案を続けることで受注件数を伸ばしています。あわせて今期立ち上げたデジタルコミュニケーション部が中心となり、ブログコンテンツのコンサルテーションやデジタルオウンドメディアのコンテンツ開発業務を含むPR活動などを受注しています。

グループ会社各社は、継続的に新規のプロジェクト案件を複数獲得し、連結での最高益に大きく寄与しました。中国では、日系企業におけるマーケティング予算の縮小や市場撤退などもありましたが、子会社2社間においてサービス体制の合理化を図ることで営業利益率を改善し、業績は堅調に推移しました。

なお、前連結会計年度は、一時的に発生した当社の創業者で元代表取締役会長の故矢島尚の役員退職慰労金の功績加算分を特別損失として計上しています。

これらの結果、当連結会計年度の売上高は5,433百万円（前年同期比0.4%減）、営業利益は743百万円（前年同期比13.7%増）、経常利益は747百万円（前年同期比13.7%増）、当期純利益は390百万円（前年同期比22.0%増）となりました。

当連結会計年度の主なクライアントとして、新規リテナークライアントは、アパレル、金融、消費材メーカー、食品メーカー、地方自治体、製薬会社、不動産、ITなどの企業を多数獲得しています。また、新規および既存顧客のプロジェクト業務としては新たにECサイト、金融、製薬会社、文具メーカー、鉄道事業、自動車、食品メーカーなどの企業を多数獲得しています。そのほか、イベント・制作関連では食品メーカーの新メニュープロモーション、医療機関のアンニュアルレポート作成、地方自治体のPRツール制作、消費材メーカーの展示会、百貨店の海外向け社外報などを受注しました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、法人税等の支払額201百万円、仕入債務の減少額229百万円、配当金の支払額115百万円等の要因により減少したものの、税金等調整前当期純利益746百

万円、売上債権の減少額157百万円等の要因により、前連結会計年度に比べ250百万円増加し、当連結会計年度は2,332百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、450百万円(前年同期は得られた資金254百万円)となりました。これは主に法人税等の支払額201百万円、仕入債務の減少額229百万円、賞与引当金の減少額26百万円、役員退職慰労引当金の減少額7百万円が生じたものの、税金等調整前当期純利益746百万円、売上債権の減少額157百万円が生じたことなどによります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は、16百万円(前年同期は使用された資金19百万円)となりました。これは主に、敷金及び保証金の差入による支出31百万円、定期預金の預入による支出14百万円、長期前払費用の取得による支出11百万円が生じたものの、投資有価証券の売却による収入90百万円が生じたことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用された資金は、266百万円(前年同期は使用された資金142百万円)となりました。これは配当金の支払額115百万円及び少数株主への配当金の支払額151百万円が生じたことによるものであります。

2 【外注、受注及び販売の状況】

当社グループは、企業の広報活動の支援・コンサルティング業務を中心としたPR事業のみの単一セグメントであるため記載を省略しております。

なお、当連結会計年度において、主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合が10%以上の相手先は、次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高(百万円)	割合(%)	販売高(百万円)	割合(%)
A社	—	—	569	10.5

- (注) 1 前連結会計年度は販売実績が10%未満のため、記載を省略しております。
2 A社との契約上守秘義務を負っているため、社名の公表は控えております。
3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

(1) PRサービスのクオリティ向上

当社グループは、パブリシティ業務、記者発表会立案を含む広報代行業務をコア事業としてまいりましたが、そこから波及するコミュニケーションに関わる課題を解決するためには常に高度なコミュニケーション・スキルが求められます。中でもクライシス時の広報対応スキルの習得やコミュニケーション・コンサルティング、メディア・トレーニングといった事業には特に注力していきたいと考え、市場競争力を高めて更なる売上拡大を目指したいと考えます。多様化・複雑化するマーケットニーズを取り入れ、高品質・高付加価値のサービスを提供してまいります。

(2) 人材への投資・人材育成の強化

当社グループにとって事業競争力の源泉となる人材の育成と確保は、重要な課題です。営業人員一人ひとりが受託型から提案型のプロアクティブサービスを積極的に実施できるよう、外部研修機関との連携や管理職向けの教育を徹底し、広範なコミュニケーション・サービス・スキルを習得していきたいと考えています。また、グループ会社への積極的な出向など、多種多様な経験を通して人材育成の機会を創出し、更なる収益増を目指してまいります。

(3) 中国事業の強化およびそのほかの海外マーケットにおける受注強化

当社中国子会社では現在2つの現地法人、3つの事業所を拠点に事業を展開し、日系企業の顧客を中心に、包括的なマーケティング活動を支援しています。中国経済における景気減速リスクも懸念していますが、インバウンド消費を意識した中国現地企業のPRニーズの高まりなども伺え、事業の注力分野を見極めながら成長を実現させたいと考えます。また、当社グループが加盟しているPROI（Public Relations Organisation International）グループのグローバルネットワークを通して各国のPR業務の引き合いも増加傾向にあり、グループ全体の人的リソースを最適化しながら海外マーケットにおける受注も強化してまいりたいと考えます。

(4) グループの更なる経営体制の効率化

当社グループでは、クライアントに対しグループ内の幅広いサービスを活用し、協業体制を構築しています。各グループ会社における注力事業の見直し、人的リソースの再配分など、グループ全体での業容拡大を図るため更なる経営資源の有効活用を実施してまいります。

4 【事業等のリスク】

以下において、当社グループの事業展開上リスク要因となる可能性があると考えられる主な事項を記載しております。また、必ずしも事業上のリスクに該当しない事項についても、投資家の投資判断上、重要であると考えられる事項については投資家に対する情報開示の観点から積極的に開示しております。なお、当社グループはこれらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針であります。本株式に関する投資判断は、以下の記載事項以外の記載内容も併せて、慎重に検討した上で行われる必要があると考えております。また、以下の記載は、本株式への投資に関連するリスクを全て網羅するものではなく、想定されるリスクを例示的に列挙したものですので、この点ご注意ください。

なお、以下の記載のうち将来に関する事項は、平成27年8月31日現在において当社が判断したものであり、不確実性を内在しているため、実際の結果と異なる可能性があります。

(1) メディアとの関係

当社グループは、新聞・雑誌・テレビ・ラジオ・インターネット等のメディア各社に対し有用な情報を長期的かつ継続的に提供していることにより、メディア各社と良好な信頼関係を築いておりますが、当社グループが誤った情報の提供等により、万が一メディアとの信頼関係を失った場合、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

(2) 人材の確保及び育成

当社グループの成長性及び優位性は、優秀なPRプロフェッショナルの確保及び育成に大きく依存します。PR

事業において、クライアントとのコミュニケーション力及びメディア各社との人的ネットワークはPR会社の重要な財産ともなります。従いまして当社グループは、PRのプロフェッショナルとなりうる優秀な人材の確保のため、大学及び大学院の新卒者の定期採用や即戦力となりうるPR業務経験者の中途採用を積極的に行っております。

また、PRプロフェッショナルの早期戦力化を図るため、独自の教育・研修制度を実施しておりますが、十分な数のPRプロフェッショナルの確保及び育成ができなかった場合、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

(3) 資本関係及び業務提携

○WPP Group plc. との資本関係及び業務提携

平成14年1月に世界有数のコミュニケーションサービスグループであるWPP Group plc. (以下WPP)の子会社である持株会社、Cavendish Square Holding BV(キャヴェンディッシュ・スクエア・ホールディングス・ビーヴィー以下キャヴェンディッシュ)が故当社代表取締役会長矢島尚から株式を譲り受け、平成27年8月31日現在当社の株式 935,800株(持株比率20.0%)を保有しております。

なお、WPPとキャヴェンディッシュの間にはWPPの100%子会社が10数社ございます。

また、同時にWPPのPR部門であるOgilvy Public Relations Worldwide(オグルヴィ・パブリック・リレーションズ・ワールドワイド以下オグルヴィ)と平成14年1月22日付で「Principles of Partnership」を締結しております。

オグルヴィと当社で締結している「Principles of Partnership」は、WPPのPR部門であるオグルヴィから同社が担当しているクライアント等を当社に紹介するというものであります。本契約の解除、更新拒絶、その他の理由により終了した場合、当社グループの経営成績への影響は軽微です。

○北京普樂普公共關係顧問有限公司の子会社化

当社グループは平成18年11月30日付けで、業務提携契約を締結していた北京普樂普公共關係顧問有限公司の株式取得および増資により、資本金の60%を保有し、北京普樂普公共關係顧問有限公司を連結子会社化いたしました。同社は中国における日本企業のPR業務を主に受注し堅調に推移していますが、同社の業績によっては当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

○株式会社旭エージェンシーの子会社化

当社グループは平成21年3月3日付けで、株式会社旭エージェンシーの株式取得により、議決権の100%を保有し、連結子会社化いたしました。同社は主として外国食品関係の公益法人・企業などの日本国内での広報・PRおよび販売促進活動を行っており、30年以上の歴史があります。当社グループといたしましては、食品関係の広報コンサルティング・代行業務を補完し、発展させる見込みが高いことに加え、バイリンガルスタッフの効率的な交流によるサービスの高度化が期待できますが、同社の業績によっては当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

○ウィタンアソシエーツ株式会社の子会社化

当社グループは平成24年12月5日付けで、ウィタンアソシエーツ株式会社の株式取得により、議決権の100%を保有し、連結子会社化いたしました。同社は、現在まで、主に欧州関連団体の日本国内における広報・PRおよび販売促進活動を行っているほか、国内企業、外資系企業の日本市場における広報活動支援業務を中心に30年以上の歴史があります。同社が有する欧州関連団体への広報コンサルティング・代行業務、また、そこで培ったネットワークや日本国内での幅広い実績は、グループ内の広報・PR分野における情報資産の拡大が期待できますが、同社の業績によっては当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

○北京博瑞九如公共關係顧問有限公司の子会社化

当社の連結子会社である株式会社ブレインズ・カンパニーは、平成21年12月31日付けにて、北京博瑞九如公共關係顧問有限公司の株式の取得により議決権の60%を保有し、連結子会社といたしました。同社は中国における日本企業のPR業務を主に受注し堅調に推移していますが、同社の業績によっては当社グループの経営成績に影響を与

える可能性があります。

(4) 情報管理

当社グループは、業務の性質上クライアントの企業秘密やインサイダー情報を扱うことが多く、情報管理には万全を期した体制を構築しております。また、当社の取扱う個人情報につきましても、個人情報保護法の対象となり、その取扱いには細心の注意を払っております。万が一これらの情報の漏洩や不正使用などがあった場合、損害賠償、社会的信用の失墜等により当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

(5) クライシス対応業務

当社グループは、コミュニケーションサービスの一環として、年々ニーズの高まっているクライシス対応業務を行っております。具体的には、クライアントに対し、メディア対応のトレーニング業務やクライシス管理の対応に関する業務等クライシス発生を想定したものからクライシスが発生した際の対応業務まで、クライアントの重要な局面におけるコミュニケーションサービスを提供しております。本業務は当然にクライアントとの信頼関係に基づいて行われておりますが、クライシス対応業務は平時よりも高度な機密情報を取扱うため、漏洩等があった場合は、クライアントからの信頼の喪失等により、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

(6) 知的財産権

当社グループは、PR事業活動を行う過程で、第三者の知的財産権を侵害しないよう努めております。しかし、かかる知的財産権の侵害が生じてしまう可能性は否定できず、万が一知的財産権を侵害してしまった場合には、当社グループの経営成績及び社会的信用に影響を与える可能性があります。

(7) 為替変動の影響について

当社グループは、中国子会社2社および欧米企業・団体の業務中心の株式会社旭エージェンシー、並びに欧州関連団体への業務中心のウィタンアソシエイツ株式会社が連結業績へ組入れられています。従って、海外での業績および海外クライアントからの受注によるPR活動等の取り組みにおいて、為替変動の影響を受けております。事業活動において為替変動リスクを完全に排除することは困難なことから、今後著しい為替変動があった場合、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(8) カントリーリスクについて

当社グループの子会社のうち2社は中国において事業活動を展開していますが、今後当該国地域における、景気の変動、法律等の改正、紛争や災害、伝染病の蔓延等、不測の事態となった場合、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

業務提携契約

契約会社名	相手方の名称	国名	契約書名	契約内容	契約期間
(株)ブラップ ジャパン	オグルヴィ・パブリック・リレーションズ・ワールド ワイド	米国	Principles of Partnership	WPP Group plc.のPR部門であるオグルヴィ・パブリック・リレーションズ・ワールドワイドからPR先進国である米国のPR情報及びノウハウの提供を受けるとともに、同社が担当しているクライアントを当社に紹介するというものであります。	平成17年3月16日～ 平成18年3月15日 以降1年毎自動更新

(注) オグルヴィ・パブリック・リレーションズ・ワールドワイドとのPrinciples of Partnership は、平成14年1月22日に締結されたものが改定されたものです。

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態の分析

(流動資産)

当連結会計年度における流動資産の残高は、3,792百万円と前連結会計年度に比べ188百万円の増加となりました。これは、債権回収に伴う受取手形及び売掛金120百万円、繰延税金資産20百万円が減少したものの、現金及び預金289百万円、たな卸資産12百万円、前払費用13百万円が増加したことが主な要因であります。

(固定資産)

当連結会計年度における固定資産の残高は、584百万円と前連結会計年度に比べ88百万円の減少となりました。これは、差入保証金が23百万円増加したものの、繰延税金資産16百万円、投資有価証券69百万円が減少したことが主な要因であります。

(流動負債)

当連結会計年度における流動負債の残高は、858百万円と前連結会計年度に比べ239百万円の減少となりました。これは、未払法人税等44百万円が増加したものの、賞与引当金26百万円、支払手形及び買掛金210百万円、未払配当金53百万円が減少したことが主な要因であります。

(固定負債)

当連結会計年度における固定負債の残高は、302百万円と前連結会計年度に比べ10百万円の減少となりました。これは、退職給付に係る負債3百万円、役員退職慰労引当金7百万円が減少したことが主な要因であります。

(純資産)

当連結会計年度における純資産の残高は、3,215百万円と前連結会計年度に比べ350百万円の増加となりました。これは、利益剰余金274百万円、為替換算調整勘定34百万円、少数株主持分28百万円が増加したことが主な要因であります。

(2) 経営成績の分析

当連結会計年度における主な勘定科目等の増減の状況は次のとおりです。

(売上高)

当連結会計年度において売上高は5,433百万円と前連結会計年度に比べ22百万円(△0.4%)の減収となりました。これは、当社単体の売上高が81百万円(△2.4%)の減収となったことによるものです。

(営業利益)

営業利益は、743百万円と前連結会計年度に比べ89百万円(13.7%)の増益となりました。売上高が前連結会計年度より22百万円(△0.4%)の減収となったものの、売上原価が前連結会計年度に比べ81百万円(△2.1%)減少したことに加え、販売費及び一般管理費が前連結会計年度に比べ29百万円(△3.6%)減少したことが主な要因です。

(経常利益)

経常利益は、747百万円と前連結会計年度に比べ90百万円(13.7%)の増益となりました。為替変動の影響により為替差損が5百万円増加したものの、前連結会計年度に計上されなかった投資有価証券の売却にともなう投資有価証券売却益5百万円や、営業利益が89百万円(13.7%)の増益となったことによるものです。

(当期純利益)

当期純利益は、390百万円と前連結会計年度に比べ70百万円(22.0%)の増益となりました。これは、経常利益が90百万円(13.7%)の増益となったことに加え、前連結会計年度に計上された特別損失の役員退職慰労金35百万円などが当連結会計年度では計上されなかったことによるものです。

(3) キャッシュ・フローの分析

当連結会計年度におけるキャッシュ・フローの状況については、「1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フローの状況」に記載しております。

当社グループのキャッシュ・フロー指標のトレンドは下記のとおりであります。

	平成23年 8 月期	平成24年 8 月期	平成25年 8 月期	平成26年 8 月期	平成27年 8 月期
自己資本比率 (%)	65.2	63.1	61.0	65.1	71.0
時価ベースの自己資本比率 (%)	85.5	71.4	118.7	94.8	96.3
債務償還年数 (年)	—	—	—	—	—
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	—	—	243	13,108	—

各指標の算出式は次のとおりであります。

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

債務償還年数：有利子負債／営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー／利払い

※ 各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

※ 株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式数（自己株式控除後）により算出しております。

※ 営業キャッシュ・フローは、連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。

有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っているすべての負債を対象としております。また、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

重要な設備の売却、除却はありません。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

(平成27年8月31日現在)

事業所名 (所在地)	設備の 内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (名)
		建物及び 構築物	車両運搬具	その他	合計	
本社 (東京都港区)	事務所設備	57,734	—	13,802	71,536	182 (34)

(2) 国内子会社

(平成27年8月31日現在)

会社名 事業所名 (所在地)	設備の 内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (名)
		建物及び 構築物	車両運搬具	その他	合計	
(株)ブレインズ・カンパニー 本社 (東京都港区)	事務所設備	—	—	473	473	12 (一)
(株)旭エージェンシー 本社 (東京都港区)	事務所設備	1,359	—	625	1,985	8 (一)
ウィタンアソシエイツ(株) 本社 (東京都港区)	事務所設備	—	—	490	490	7 (1)

(3) 在外子会社

(平成27年8月31日現在)

会社名 事業所名 (所在地)	設備の 内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (名)
		建物及び 構築物	車両運搬具	その他	合計	
北京普楽普公共関係顧問 有限公司 本社 (中国北京市)	事務所設備	—	—	5,609	5,609	53 (12)
北京博瑞九如公共関係顧 問有限公司 本社 (中国北京市)	事務所設備	—	—	756	756	13 (1)

- (注) 1 建物の全部を賃借しております。なお、連結会社以外からの主要な賃借設備の内容は、上記の提出会社において発生した事務所の年間賃借料が242,063千円となっております。
- 2 帳簿価額のうち「その他」は、器具備品であります。なお、金額には消費税等は含まれておりません。
- 3 上記中(外書)は、臨時従業員数であります。
- 4 現在休止中の設備はありません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	18,716,000
計	18,716,000

② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成27年8月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年11月26日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,679,010	4,679,010	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株 であります。
計	4,679,010	4,679,010	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成17年7月7日 (注)	500,000	4,679,010	181,000	470,783	244,425	374,437

(注) 有償一般募集（ブックビルディング方式）

発行価格 910円 引受価額 850.85円

発行価額 724円 資本組入額 362円

(6) 【所有者別状況】

平成27年8月31日現在

平成27年8月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数 100株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他		計
					個人以外	個人			
株主数 (人)	—	3	10	15	13	3	1,210	1,254	—
所有株式数 (単元)	—	1,006	578	578	9,850	27	34,744	46,783	710
所有株式数の 割合(%)	—	2.1	1.2	1.2	21.0	0.0	74.2	100.0	—

(注) 自己株式682,726株は、「個人その他」に6,827単元、「単元未満株式の状況」に26株含まれております。
 なお、期末日現在の実質的な所有株式数は、682,726株であります。

(7) 【大株主の状況】

平成27年8月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
キャヴェンディッシュ・スクエア・ホールディングス・ビーヴィー (常任代理人 オグルヴィ・アンド・メイザー・ジャパン合同会社)	オランダ王国ロッテルダム、ディーイー3072、ウィルヘルミナブレイン10 (東京都渋谷区恵比寿4-20-3)	935	20.00
矢島 婦美子	川崎市麻生区	885	18.92
野村 しのぶ	東京都渋谷区	394	8.42
矢島 さやか	川崎市麻生区	367	7.85
泉 隆	東京都練馬区	230	4.92
杉田 敏	東京都豊島区	140	2.99
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	80	1.72
ブラップジャパン従業員持株会	東京都港区赤坂1-12-32	54	1.17
小山 純子	東京都世田谷区	50	1.07
三菱UFJキャピタル株式会社	東京都中央区日本橋1-7-17	45	0.97
計	—	3,183	68.03

(注) 当社は、自己株式682,726株(14.59%)を保有しておりますが、上記の大株主からは除いております。

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成27年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 682,700	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,995,600	39,956	—
単元未満株式	普通株式 710	—	—
発行済株式総数	4,679,010	—	—
総株主の議決権	—	39,956	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、自己株式が26株含まれております。

② 【自己株式等】

平成27年8月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ブラップジャパン	東京都港区赤坂1-12-32	682,700	—	682,700	14.59
計	—	682,700	—	682,700	14.59

(注) 上記の表は、完全議決権株式(自己株式等)の明細であります。

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 普通株式

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る 移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他(—)	—	—	—	—
保有自己株式数	682,726	—	682,726	—

(注) 当期間における取得自己株式には、平成27年11月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社の利益配分における基本方針としましては、株主の皆様方に対する安定した配当を継続していくだけではなく、将来の事業展開と投資計画のバランスをとりながら決定していきます。その上で、経営成績及び配当性向なども考慮、株主への利益還元を実施いたします。

内部留保金の使途につきましては、長期的な視点に立った設備投資、事業拡大のための買収資金確保、情報投資等の資金需要に備えることとしております。これにより業績の向上を図り、今後とも株主の皆様のご期待に応えられるよう、努力してまいりたいと考えます。

当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

第45期の配当金につきましては、業績が増益となり好調に推移したことを鑑み、1株につき31円の普通配当（前期は普通配当29円）を実施いたしました。この結果、連結配当性向は31.7%となりました。

なお、当社は、会社法第454条第5項に規定する中間配当を行うことができる旨を定款で定めております。

（注） 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成27年11月26日 定時株主総会決議	123,884	31

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第41期	第42期	第43期	第44期	第45期
決算年月	平成23年8月	平成24年8月	平成25年8月	平成26年8月	平成27年8月
最高(円)	875	776	2,589	2,095	2,050
最低(円)	500	603	602	787	900

（注） 株価は、東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成27年3月	4月	5月	6月	7月	8月
最高(円)	1,380	1,356	1,329	1,399	1,411	1,369
最低(円)	1,171	1,170	1,256	1,264	1,285	948

（注） 株価は、東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）におけるものであります。

5 【役員の状況】

男性 7 名 女性 2 名 (役員のうち女性の比率22%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長	コミュニケーション・ サービス統 括本部長 兼戦略企画 本部長兼 第3 コミュニケー ション・サ ービス本 部長	鈴木 勇 夫	昭和39年11月27日生	昭和62年 4 月 平成 9 年 1 月 平成15年 4 月 平成25年12月 平成27年11月	株式会社京王百貨店入社 当社入社 CS本部ITコミュニケーション 1部部長就任 執行役員就任 当社代表取締役社長就任 (現任) コミュニケーション・サービス統 括本部長兼戦略企画本部長兼第3 コミュニケーション・サービス本 部長就任 (現任)	(注) 3	—
取締役	第1 コミュニケー ション・サ ービス本 部長	右 山 真 紀	昭和39年 7 月 5 日生	平成 3 年 2 月 平成 8 年 2 月 平成 9 年 3 月 平成19年 3 月 平成23年12月 平成25年11月	株式会社衛星チャンネル (朝日ニ ュースター) 入社 株式会社ジュンアシダ入社 当社入社 CS本部コンシューマーコミュニ ケーション第3部部長就任 執行役員就任 取締役第1コミュニケーション・ サービス本部長就任 (現任)	(注) 3	3
取締役	第2 コミュニケー ション・サ ービス本 部長	佐 藤 卓 仁	昭和38年10月 9 日生	昭和62年 4 月 平成 2 年 2 月 平成12年 4 月 平成19年 3 月 平成23年12月 平成27年11月	株式会社末徳入社 共同PR株式会社入社 当社入社 CS本部コーポレートコミュニ ケーション1部部長就任 執行役員就任 取締役第2コミュニケーション・ サービス本部長就任 (現任)	(注) 3	0
取締役 (非常勤)		矢 島 さやか	昭和46年 1 月25日生	平成 5 年 4 月 平成 8 年 1 月 平成16年 4 月 平成23年 8 月 平成27年 6 月 平成27年11月	日興コーディアル証券株式会社入 社 株式会社ブレインズ・カンパニー 入社 日興コーディアル証券株式会社入 社 株式会社イグレックオフィス取締 役 (現任) 当社顧問就任 当社非常勤取締役就任 (現任)	(注) 3	367
取締役 (非常勤)		成 松 淳	昭和43年11月14日生	平成 8 年11月 平成10年 5 月 平成16年12月 平成19年 1 月 平成19年 6 月 平成19年 7 月 平成24年 4 月 平成25年 4 月 平成25年 5 月 平成25年 9 月 平成25年10月 平成25年12月 平成26年 3 月 平成27年 5 月 平成27年11月	監査法人原会計事務所入所 監査法人トーマツ (現有限責任 監査法人トーマツ) 入所 ㈱東京証券取引所上場部出向 クックパッド㈱入社 同社取締役 同社執行役 監査法人シェルパートナーズ設立 代表社員 (現任) ミュージオ㈱設立代表取締役社 長 (現任) ナイル㈱社外監査役 ㈱トーキョーストーム社外監査 役 (現任) ㈱レアジョブ社外監査役 (現 任) ㈱ヘリオス社外監査役 (現任) ㈱FiNC 社外取締役 (現任) ナイル㈱社外取締役 (現任) 当社非常勤取締役就任 (現任)	(注) 3	—

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役 (非常勤)		久 保 明 彦	昭和33年7月6日生	昭和56年4月 平成17年4月 平成19年4月 平成21年7月 平成24年5月 平成24年9月 平成27年1月 平成27年11月	株式会社マッキャンエリクソン博 報堂（当時）入社 株式会社マッキャンエリクソン取 締役インターナショナルカンパ ニー・マネージング・ディレクター 就任 マッキャンエリクソン・ワールド ワイドエグゼクティブ・ヴァイ ス・プレジデント就任 ウェーバー・シャンドウィック株 式会社代表取締役社長CEO就任 オグルヴィ・アンド・メイザー・ ジャパン合同会社入社 オグルヴィ・アンド・メイザー・ ジャパン合同会社社長兼職務執行 者就任 オグルヴィ・アンド・メイザー・ ジャパン合同会社社長兼職務執行 者就任（現任） 当社非常勤取締役就任（現任）	(注) 3	—
監査役 (常勤)		荒 川 純	昭和25年5月30日生	昭和49年4月 平成16年5月 平成23年11月	株式会社東京銀行（現株式会社 三菱東京UFJ銀行）入行 理想科学工業株式会社入社 当社常勤監査役就任（現任）	(注) 4	—
監査役 (非常勤)		宇 野 紘 一	昭和17年1月5日生	昭和42年9月 昭和46年3月 昭和54年12月 昭和56年9月 昭和63年4月 平成12年8月 平成19年3月 平成25年11月	アーサーアンダーセンアンドカン パニー東京事務所入社 公認会計士登録 税理士登録 アーサーアンダーセン東京事務所 税務部門（宇野紘一税理士事務所） 代表パートナー 国際財政学会会員 CPA UNO OFFICE設立（現任） 国際興業株式会社社外監査役 当社非常勤監査役就任（現任）	(注) 5	—
監査役 (非常勤)		後 藤 高 志	昭和54年6月28日生	平成16年10月 平成16年10月 平成20年7月 平成27年11月	弁護士登録 森・濱田松本法律事務所入所 末吉綜合法律事務所（現：潮見坂 綜合法律事務所）入所（現任） 当社非常勤監査役就任（現任）	(注) 4	—
計							371

- (注) 1 取締役成松淳氏及び取締役久保明彦氏は、社外取締役であります。
- 2 監査役荒川純氏、監査役宇野紘一氏及び監査役後藤高志氏は、社外監査役であります。
- 3 取締役の任期は、平成27年8月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年8月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 監査役の任期は、平成27年8月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年8月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 監査役の任期は、平成25年8月期に係る定時株主総会終結の時から平成29年8月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社は、長期安定的な株主価値の向上を経営の重要課題と位置付けており、会社の永続的な発展のために、経営の透明性、効率性及び健全性を追求してまいります。また、当社は、会社の社会的役割を認識し、法令を遵守するとともに株主をはじめ地域社会、顧客企業、社員などステーク・ホルダーとの良好な関係の維持発展を図るために、経営の意思決定及び業務の執行に関する責任の明確化を行い、企業自身の統制機能を強化していく所存であります。

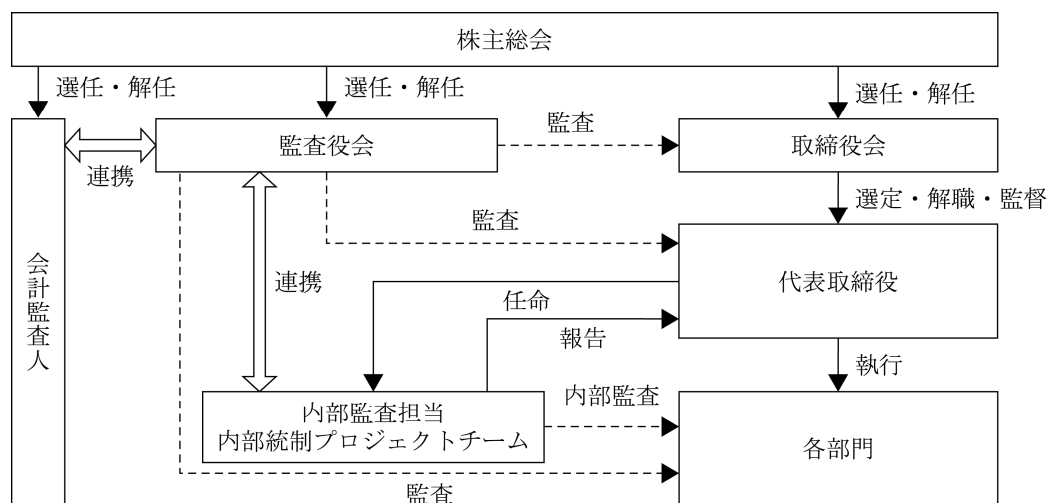
① 企業統治の体制

イ 企業統治の体制の概要

当社の取締役会は、当社の規模等に鑑み機動性を重視し、提出日現在において社外取締役2名を含む6名で構成されており、原則として月1回の定例取締役会を開催することとしております。また、緊急議案発生場合には速やかに臨時取締役会を催し、スピーディーな経営判断ができる体制を構築しております。

監査役会は、常勤監査役1名、非常勤監査役2名の合計3名で構成し、3名すべてが社外監査役となっており、月1回の定例取締役会または監査役会に出席し経営に対する監視を行っております。社外監査役荒川純氏、社外監査役宇野紘一氏及び社外監査役後藤高志氏との間には、人的関係、資金的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

当社のコーポレート・ガバナンス体制は、以下の図のとおりです。



ロ 企業統治の体制を採用する方針

当社は、取締役会規則を制定して、法令又は定款に定める事項その他当社の業務の執行は取締役会決議により決定しております。取締役会等の重要会議には監査役が常時出席し意見陳述を行い、業務執行を常に監視できる体制となっております。

また、コーポレート・ガバナンスにおける監査機能の強化として、荒川純氏、弁護士の後藤高志氏、公認会計士の宇野紘一氏を社外監査役として登用しております。さらに、取締役及び各部門の部長で構成された経営会議は、原則として月1回開催しております。特に営業・人事面の戦術についての討議を行い迅速な対応が取れるようにしております。

ハ 内部統制システムの整備状況

a. 内部牽制組織、組織上の業務部門及び管理部門の配置状況、社内規程の整備状況その他の内部管理体制の整備の状況

当社グループでは、内部管理体制の強化を目的として、諸規程の整備や社長直属の内部監査担当者を任命し、組織的な業務運営を行える体制を構築しております。また、内部監査担当者は、内部監査規程に基づいて監査計画書を作成し、当社グループの全ての部門の内部監査を、監査役や監査法人との連携のもとに計画的に会計監査、業務監査あるいは臨時の監査を毎年実施しております。さらに、営業部門から提出される伝票、届出書及び申請書類については、営業管理、総務、経理などの管理部門が、職務権限規程や業務フローの観点からきちんと遵守されているかを確認しており、内部監査とあわせて、現状では内部牽制組織は十分機能していると考えております。

内部統制の構築に当たっての全社的な管理については、会社法及び金融商品取引法上の内部統制体制を整備するため内部統制プロジェクトチームを組成して行っております。最終的な内部統制の評価責任者である経営者を補助して評価を実施するものとして、内部統制の整備、評価業務に精通している内部統制プロジェクトチームが内部監査担当と連携し、自らの業務を評価することとならない範囲において独立的評価を実施するものとしております。なお、当プロジェクトチームの構成員は、IT、内部監査、経理、管理、営業関連業務に精通している者を招集し、会社法及び金融商品取引法上の内部統制システムの監査を含めた、より実質的な内部統制を構築できる体制としております。

b. 内部管理体制の充実に向けた取組みの最近1年間における実施状況

当社グループでは当連結会計年度において、監査計画書に基づき、「職務権限規程」や「業務フロー」が遵守されているかについて、営業部門、管理部門、子会社において内部監査（業務監査）を実施いたしました。全体として内部監査結果は特に大きな問題はありませんでしたが、改善が必要な部門につきましては改善指示書を送付し、さらに徹底するよう指導しております。また、これらの内部監査結果は内部監査報告書を作成し、社長に報告しております。

内部統制プロジェクトチームは、財務報告に係る内部統制基本計画書に基づき、内部統制の一次評価を子会社も含めて実施し、その後、決算処理を含めたロールフォワードを実施いたしました。これらの評価においても内部統制の有効性が確認されたため、最終的に当社グループの内部統制は「有効である」という評価結果となりました。また、これらの内部統制監査結果は「第45期 内部統制 最終評価結果報告書」を作成し、社長に報告しております。

ニ リスク管理体制の整備状況

当社のリスク管理体制は、リスクを一元的に管理し、主要なリスクを抽出、予防の方策、またリスクが発生した場合は迅速な情報収集・分析を的確に行い、被害を最小限に食い止め、再発を防止し、当社の企業価値を保全するために「リスク対策委員会」を設置し、リスク管理規程に従った運用及び管理のもと、リスクへの対策を適切に実施しております。

ホ 提出会社の子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

当社グループの業務の適正については、関係会社管理規程に従い管理しております。関係会社管理規程は、関係会社に対する全般的な管理方針、管理組織について定めてあり、関係会社に関する業務の円滑化および管理の適正化を図り、もって関係会社を指導・育成し、相互の利益の促進向上に努めております。

また、当社グループの業務執行の状況については、内部監査規程に基づき、内部監査担当が関係会社に対し、原則として毎年1回以上、定期または臨時に、実地監査を行っております。また、実地監査報告書は、内部監査担当の意見を付して代表取締役社長に報告し、監査の結果に基づいて、必要があれば関係会社に対して指示または勧告を行っております。

さらに、子会社の業務執行について職務権限規程等の決裁ルールを整備を行うほか、経営の重要な事項に関しては、社内規程に基づき、当社の事前承認または当社の報告を求めるとともに、当社の子会社担当役員及び子会社管理関連部門等が子会社からの事業計画、業務執行状況・財務状況等の報告を定期的に受け、業務の適正を確認しております。

② 内部監査及び監査役監査

イ 内部監査

当社グループにおける内部監査に関する基本的事項を内部監査規程に定めており、監査担当者が監査役及び会計監査人と密接な連携を保ち、内部監査を計画的に実施しております。また、社長の命を受けた監査担当者（担当者7名）は監査を統轄し、各監査担当者の監査分担を定めております。内部監査の指摘事項に対しては、改善指示書を提出した後、改善目標時期が示された回答書を入手します。目標時期に到達した時点で、改善状況を確認し、フォローアップを行っています。これら内部監査の運営を円滑に行うとともに、経営の合理化・効率化及び業務の適正な遂行を図っております。

ロ 監査役監査、会計監査の状況

監査役会は、監査役会が定めた監査方針に則り、取締役会等への出席、業務、会計の監査を通じて取締役の職務の執行を監査しております。

当社は、企業経営及び日常業務に関して、経営判断上の参考とするため、社外監査役である弁護士の後藤高志氏の助言と指導を適宜受けられる体制を設け、法務リスク管理体制の強化に努めております。また、会計監査を担当する監査法人として、有限責任 あずさ監査法人と会社法に基づく監査及び金融商品取引法に基づく監査について監査契約を結んでおり、定期的な監査のほか会計上の課題については随時確認をとるなど、会計処理並びに内部統制組織の適正性の確保に努めております。

③ 社外取締役及び社外監査役

イ 社外取締役

取締役成松淳氏及び取締役久保明彦氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。当社におきましては、会社法第2条第15号に定める社外取締役の要件を満たす取締役2名を配するとともに、会社独自の取組みを以下のとおり行っており、現取締役6名の体制においてガバナンスは機能しているものと認識しております。

a. 従業員に法令・定款の遵守を徹底するため、「ブラップ・コンプライアンス・マニュアル（行動規範）」を策定し配布、またコーポレート・ガバナンスと経営理念、企業倫理が記載されている「ブラップジャパン・ハンドブック」を配付し、周知徹底を図るとともに、社内教育機関である「ブラップ大学」にて教育研修できる体制をとっております。さらに、取締役及び従業員が法令・定款等に違反する行為を発見した場合の報告体制としての内部通報制度「ブラップ・ホットライン」を実施しております。

b. 内部監査規程に基づき監査担当者が監査役と連携し、内部監査を計画的に実施しております。また、内部統制基本計画書に基づき内部統制プロジェクトチームが内部監査担当者と連携し、会社法及び金融商品取引法上の内部統制システムの監査を含めた、より実質的な内部統制を構築できる体制としております。

c. 当社は、業務の性質上クライアントの企業秘密やインサイダー情報を扱うことが多いため、インサイダー取引防止規程及び秘密管理規程を制定し、情報管理には万全を期した体制を構築しております。また、ISO/IEC27001 (ISMS：情報セキュリティマネジメントシステム)の認証を全社で取得しており、当社の情報セキュリティが適切に行われていることを、第三者機関によって証明できる体制となっております。

ロ 社外監査役

監査役荒川純氏、監査役宇野紘一氏及び監査役後藤高志氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であり、監査役3名中3名すべてを社外監査役とすることで、コーポレート・ガバナンスにおける監査機能を強化しております。また、社外監査役より1名（監査役荒川純氏）を独立役員として選任しており、一般株主と利益相反が生じることなく、外部からの客観的、中立の経営監視機能が十分に機能する体制を整えております。

ハ 社外役員の状況

a. 社外役員との人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係等

社外取締役の成松淳氏は、公認会計士としての企業会計等に関する豊富な専門的知見と他社での社外取締役としての経験を有しており、その経歴等から社外取締役として当社の経営に有用な意見をいただけるものと判断しております。

社外取締役の久保明彦氏は、世界的なマーケティング企業であり当社の筆頭株主でもあるWPPグループにおいて、企業経営者として長年に亘る豊富な実務経験、幅広い知見を有し、当社の事業内容にも精通していることから、社外取締役として当社の経営に有用な意見をいただけるものと判断しております。

社外監査役の荒川純氏は、主に内部統制及び管理業務の専門的知識と経験・見識からの視点に基づく経営の監督とチェック機能としての見地からの発言を行っております。また、同氏と当社との間に特別な利害関係はありません。

社外監査役の宇野紘一氏は、公認会計士及び税理士としての豊富な専門知識と長年の実務経験からの視点に基づくコーポレート・ガバナンスの一層の充実に活かすという見地からの発言を行っております。同氏が兼職するCPA UNO OFFICEと当社の間には重要な取引その他の利害関係はありません。

社外監査役の後藤高志氏は、弁護士の資格を有しており、企業法務に精通し、企業経営を統治するに十分な見識を有しており、その経歴等から社外監査役として当社の監査に有用な意見をいただけるものと判断しております。

b. 社外役員の選任状況に関する考え方

社外役員の選任につきましては、弁護士及び公認会計士等の専門的資格を有するか、又は同様の経営及び会計の専門知識と経験を有する方が望ましいと考えております。

なお、当社は、社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針は定めておりませんが、一般株主と利益相反が生じないよう、株式会社東京証券取引所の定める独立役員の独立性に関する判断基準等を参考にしております。

c. 社外役員による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

前記「② 内部監査及び監査役監査」に記載のとおりであります。

d. 責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役および社外監査役は、会社法第423条第1項に定める賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく賠償責任限度額は、法令が規定する額（最低責任限度額）としております。

④ 役員の報酬等

イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	82	66	—	—	16	6
監査役 (社外監査役を除く。)	—	—	—	—	—	—
社外役員	22	20	—	—	2	6

(注) 1. 上記の報酬の額には、当事業年度に係る役員退職慰労引当金の繰入額7百万円を含んでおります。

2. 上記の取締役の報酬の額には、使用人兼務取締役の使用人分給与を含んでおりません。

3. 連結報酬等の総額が1億円以上の役員はおりません。

ロ 役員の報酬等の額の決定に関する方針

当社は役員等の報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針はございません。

⑤ 株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

該当はありません。

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

該当はありません。

ハ 保有目的が純投資目的である投資株式

	前事業年度 (百万円)	当事業年度 (百万円)				
		貸借対照表 計上額の合計額	貸借対照表 計上額の合計額	受取配当金 の合計額	売却損益 の合計額	評価損益 の合計額
						含み損益 減損 処理額
非上場株式	—	—	—	—	—	—
非上場株式以外の株式	69	—	1	5	—	—

⑥ 会計監査の状況

当社は有限責任 あずさ監査法人と会社法及び金融商品取引法に基づいた監査契約を締結しております。当事業年度において業務を執行した公認会計士の氏名、監査業務に係る補助者の構成については以下のとおりであります。

イ 業務を執行した公認会計士の氏名及び所属する監査法人名

秋山 茂盛 (有限責任 あずさ監査法人)

田中 量 (有限責任 あずさ監査法人)

ロ 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 6名

その他 3名

⑦ 取締役の定数

当社は、取締役の定数を10名以内とする旨を定款で定めております。

⑧ 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款で定めております。

また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨を定款で定めております。

⑨ 株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項

イ 自己株式の取得

当社は、自己株式の取得について機動的に行うことを可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得できる旨を定款で定めております。

ロ 中間配当金

当社は、株主への利益還元を機動的に実施できるようにするため、会社法第454条第5項の規定に基づき、取締役会の決議によって、毎年2月末日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対し、中間配当をすることができる旨を定款で定めております。

⑩ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
提出会社	19	—	19	—
連結子会社	—	—	—	—
計	19	—	19	—

② 【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度

当社の公認会計士等と同一のネットワークに属しているKPMG Huazhenが実施した連結子会社の財務諸表監査及び財務諸表レビューに対する報酬の額は20万元であります。

当連結会計年度

当社の公認会計士等と同一のネットワークに属しているKPMG Huazhenが実施した連結子会社の財務諸表監査、財務諸表レビュー及び財務報告に係る内部統制の監査に対する報酬の額は29万元であります。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、監査予定時間や監査計画の内容等を勘案し、監査役の同意を得て決定しております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成26年9月1日から平成27年8月31日まで)及び第45期事業年度(平成26年9月1日から平成27年8月31日まで)の連結財務諸表及び財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、監査法人及び各種団体の主催する講習会に参加並びに会計専門書の定期購読等により、積極的な情報収集活動に努めております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年8月31日)	当連結会計年度 (平成27年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,354,946	2,644,931
受取手形及び売掛金	969,903	849,859
有価証券	23,152	27,047
たな卸資産	※1 135,119	※1 147,353
繰延税金資産	54,671	34,132
その他	67,377	92,858
貸倒引当金	△1,255	△4,142
流動資産合計	3,603,916	3,792,039
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	103,784	102,716
減価償却累計額	△34,346	△43,623
建物及び構築物（純額）	69,437	59,093
その他	76,485	87,601
減価償却累計額	△54,498	△65,842
その他（純額）	21,986	21,758
有形固定資産合計	91,424	80,852
無形固定資産		
のれん	19,735	13,663
借地権	557	557
ソフトウエア	8,778	13,039
無形固定資産合計	29,071	27,259
投資その他の資産		
投資有価証券	119,679	50,000
差入保証金	249,815	273,526
繰延税金資産	125,630	109,069
その他	56,914	43,343
投資その他の資産合計	552,040	475,939
固定資産合計	672,536	584,051
資産合計	4,276,452	4,376,090

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年 8 月31日)	当連結会計年度 (平成27年 8 月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	496,046	285,049
未払法人税等	90,419	134,863
未成業務受入金	120,543	96,358
賞与引当金	85,760	58,975
その他	305,245	283,122
流動負債合計	1,098,015	858,370
固定負債		
役員退職慰労引当金	169,160	161,704
退職給付に係る負債	143,650	140,542
その他	279	41
固定負債合計	313,089	302,288
負債合計	1,411,104	1,160,658
純資産の部		
株主資本		
資本金	470,783	470,783
資本剰余金	374,437	374,437
利益剰余金	2,360,652	2,635,505
自己株式	△434,373	△434,373
株主資本合計	2,771,500	3,046,352
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△10,086	2,013
為替換算調整勘定	22,015	56,711
その他の包括利益累計額合計	11,928	58,725
少数株主持分	81,918	110,353
純資産合計	2,865,347	3,215,431
負債純資産合計	4,276,452	4,376,090

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年 9 月 1 日 至 平成26年 8 月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年 9 月 1 日 至 平成27年 8 月31日)
売上高	5,455,910	5,433,737
売上原価	3,976,820	3,895,228
売上総利益	1,479,090	1,538,509
販売費及び一般管理費		
役員報酬	155,950	162,968
従業員給料及び手当	213,516	215,378
従業員賞与	59,043	36,933
賞与引当金繰入額	21,435	21,163
退職給付費用	4,252	3,215
役員退職慰労引当金繰入額	10,652	10,544
貸倒引当金繰入額	△3,032	2,704
減価償却費	7,248	7,253
地代家賃	57,393	59,700
その他	298,790	275,472
販売費及び一般管理費合計	825,250	795,334
営業利益	653,840	743,175
営業外収益		
受取利息	1,519	1,673
受取配当金	2,679	1,742
投資有価証券売却益	—	5,740
その他	1,388	2,177
営業外収益合計	5,587	11,333
営業外費用		
為替差損	434	5,558
支払利息	19	—
出資金運用損	1,637	1,692
その他	115	—
営業外費用合計	2,206	7,251
経常利益	657,221	747,257
特別損失		
固定資産除却損	※1 912	※1 603
役員退職慰労金	35,060	—
訴訟関連損失	10,060	—
事務所移転費用	812	—
特別損失合計	46,845	603
税金等調整前当期純利益	610,376	746,654
法人税、住民税及び事業税	146,460	240,340
法人税等調整額	83,557	30,527
法人税等合計	230,018	270,868
少数株主損益調整前当期純利益	380,357	475,785
少数株主利益	60,049	85,040
当期純利益	320,307	390,744

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年 9 月 1 日 至 平成26年 8 月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年 9 月 1 日 至 平成27年 8 月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	380,357	475,785
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6,727	12,100
為替換算調整勘定	9,367	57,827
その他の包括利益合計	※1 16,094	※1 69,928
包括利益	396,452	545,713
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	332,655	437,541
少数株主に係る包括利益	63,796	108,172

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成25年 9 月 1 日 至 平成26年 8 月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	470,783	374,437	2,148,244	△434,373	2,559,092
当期変動額					
剰余金の配当			△107,899		△107,899
当期純利益			320,307		320,307
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	212,408	—	212,408
当期末残高	470,783	374,437	2,360,652	△434,373	2,771,500

	その他の包括利益累計額			少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	△16,813	17,286	472	77,086	2,636,651
当期変動額					
剰余金の配当					△107,899
当期純利益					320,307
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	6,727	4,728	11,456	4,831	16,287
当期変動額合計	6,727	4,728	11,456	4,831	228,695
当期末残高	△10,086	22,015	11,928	81,918	2,865,347

当連結会計年度(自 平成26年 9 月 1 日 至 平成27年 8 月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	470,783	374,437	2,360,652	△434,373	2,771,500
当期変動額					
剰余金の配当			△115,892		△115,892
当期純利益			390,744		390,744
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	274,852	—	274,852
当期末残高	470,783	374,437	2,635,505	△434,373	3,046,352

	その他の包括利益累計額			少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	△10,086	22,015	11,928	81,918	2,865,347
当期変動額					
剰余金の配当					△115,892
当期純利益					390,744
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	12,100	34,696	46,797	28,434	75,231
当期変動額合計	12,100	34,696	46,797	28,434	350,084
当期末残高	2,013	56,711	58,725	110,353	3,215,431

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年 9 月 1 日 至 平成26年 8 月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年 9 月 1 日 至 平成27年 8 月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	610,376	746,654
減価償却費	24,493	24,907
のれん償却額	10,907	6,072
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△164,647	△7,456
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	5,158	△3,107
賞与引当金の増減額 (△は減少)	22,472	△26,785
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△2,023	2,704
受取利息及び受取配当金	△4,198	△3,415
支払利息	19	—
固定資産除却損	912	603
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△5,740
売上債権の増減額 (△は増加)	△75,011	157,041
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△8,181	△1,861
仕入債務の増減額 (△は減少)	20,633	△229,240
その他	4,648	△12,580
小計	445,558	647,794
利息及び配当金の受取額	4,257	3,413
利息の支払額	△19	—
法人税等の支払額	△195,570	△201,042
営業活動によるキャッシュ・フロー	254,226	450,166
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△14,806	△14,804
定期預金の払戻による収入	12,000	—
有価証券の取得による支出	△1	△2
投資有価証券の売却による収入	—	90,200
有形固定資産の取得による支出	△21,696	△9,351
無形固定資産の取得による支出	△2,578	△8,756
貸付金の回収による収入	970	2,057
敷金及び保証金の差入による支出	△3,973	△31,107
敷金及び保証金の回収による収入	10,823	396
長期前払費用の取得による支出	—	△11,971
投資活動によるキャッシュ・フロー	△19,262	16,660
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△108,394	△115,705
少数株主への配当金の支払額	△34,112	△151,191
財務活動によるキャッシュ・フロー	△142,506	△266,897
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,149	51,034
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	94,606	250,964
現金及び現金同等物の期首残高	1,986,960	2,081,567
現金及び現金同等物の期末残高	※1 2,081,567	※1 2,332,532

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 5社

連結子会社の名称

(株)ブレインズ・カンパニー

(株)旭エージェンシー

ウィタンアソシエイツ(株)

北京普樂普公共關係顧問有限公司

北京博瑞九如公共關係顧問有限公司

2 持分法の適用に関する事項

持分法適用の非連結子会社又は関連会社はありません。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、事業年度末日が連結決算日と異なる会社は、北京普樂普公共關係顧問有限公司と北京博瑞九如公共關係顧問有限公司の2社で12月31日ですが、連結財務諸表作成にあたっては、6月30日時点で、本決算に準じた仮決算を行っております。

なお、7月1日から連結決算日8月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

①有価証券

満期保有目的の債券

原価法を採用しております。

その他有価証券

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

②たな卸資産

未成業務支出金

個別法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用しております。

貯蔵品

最終仕入原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

①有形固定資産

建物(附属設備を除く)については定額法、その他の有形固定資産については主として定率法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 3～15年

その他(器具備品) 4～15年

取得価額が10万円以上20万円未満の一括償却資産については、法人税法の規定に基づき3年間で均等償却しております。

②無形固定資産

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(主として5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

①貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

②賞与引当金

従業員に支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額の当連結会計年度負担額を計上しております。

③役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社及び連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外連結子会社の資産、負債は、在外連結子会社の仮決算日の直物為替相場により円貨に換算しております。

(6) のれんの償却に関する事項

のれんの償却については、効果の発現する期間を合理的に見積り、当該期間にわたり均等償却しております。

なお、ウィタンアソシエイツ㈱、北京博瑞九如公共関係顧問有限公司取得にかかるのれんの償却期間は5年であります。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(未適用の会計基準等)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

該当事項はありません。

(連結貸借対照表関係)

※ 1 たな卸資産の内訳

	前連結会計年度 (平成26年 8 月 31 日)	当連結会計年度 (平成27年 8 月 31 日)
未成業務支出金	133,614千円	145,524千円
貯蔵品	1,505千円	1,828千円
計	135,119千円	147,353千円

(連結損益計算書関係)

※ 1 固定資産除却損の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年 9 月 1 日 至 平成26年 8 月 31 日)	当連結会計年度 (自 平成26年 9 月 1 日 至 平成27年 8 月 31 日)
建物及び構築物	762千円	467千円
その他 (器具備品)	149千円	135千円
計	912千円	603千円

(連結包括利益計算書関係)

※ 1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成25年 9 月 1 日 至 平成26年 8 月31 日)	当連結会計年度 (自 平成26年 9 月 1 日 至 平成27年 8 月31 日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	10,446千円	24,412千円
組替調整額	－千円	△5,740千円
税効果調整前	10,446千円	18,672千円
税効果額	△3,718千円	△6,572千円
その他有価証券評価差額金	6,727千円	12,100千円
為替換算調整勘定		
当期発生額	9,367千円	57,827千円
組替調整額	－千円	－千円
税効果調整前	9,367千円	57,827千円
税効果額	－千円	－千円
為替換算調整勘定	9,367千円	57,827千円
その他の包括利益合計	16,094千円	69,928千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成25年 9 月 1 日 至 平成26年 8 月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	4,679,010	—	—	4,679,010

(変動事由の概要)

該当事項はありません。

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	682,726	—	—	682,726

(変動事由の概要)

該当事項はありません。

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年11月28日 定時株主総会	普通株式	107,899	27	平成25年 8 月31日	平成25年11月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年11月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	115,892	29	平成26年 8 月31日	平成26年11月28日

当連結会計年度(自 平成26年 9 月 1 日 至 平成27年 8 月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	4,679,010	—	—	4,679,010

(変動事由の概要)

該当事項はありません。

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	682,726	—	—	682,726

(変動事由の概要)

該当事項はありません。

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成26年11月27日 定時株主総会	普通株式	115,892	29	平成26年 8 月31日	平成26年11月28日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年11月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	123,884	31	平成27年 8 月31日	平成27年11月27日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成25年9月1日 至 平成26年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年9月1日 至 平成27年8月31日)
現金及び預金勘定	2,354,946千円	2,644,931千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△273,379千円	△312,399千円
現金及び現金同等物	2,081,567千円	2,332,532千円

(リース取引関係)

オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース取引

	前連結会計年度 (平成26年8月31日)	当連結会計年度 (平成27年8月31日)
1年以内	286,950千円	289,457千円
1年超	603,035千円	313,578千円
合計	889,986千円	603,035千円

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

当社は、安全性の高い短期的な預金等の余資に限定して、運転資金や安全性の高い金融資産で資金運用しております。また、資金調達については、運転資金が手元資金でまかなえない場合については、銀行等金融機関からの借入により必要な資金を調達する方針であります。

受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、与信管理規程に沿ってリスク低減を図っております。また、投資有価証券は主として株式であり、上場株式については定期的に時価の把握を行っています。デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限及び取引限度額等を定めた社内規程に従い、資金担当部門が決裁担当者の承認を得て行っております。また、内容につき定期的に開催される取締役会に報告を行っております。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度(平成26年8月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	2,354,946	2,354,946	—
(2) 受取手形及び売掛金	969,903	969,903	—
(3) 有価証券及び投資有価証券			
①満期保有目的の債券	50,000	50,695	695
②その他有価証券	92,832	92,832	—
(4) 差入保証金	249,815	247,007	△2,807
資産計	3,717,498	3,715,385	△2,112
(5) 支払手形及び買掛金	496,046	496,046	—
負債計	496,046	496,046	—

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

(1) 現金及び預金、並びに (2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価については、株式は取引所の価格、債券等については金融機関等からの提示額によっております。なお、Money Market Fundについては短期間で決済されるものである為、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

(4) 差入保証金

差入保証金の時価は、回収可能性を反映した将来キャッシュ・フローを合理的に見積もりをした差入保証金の返還予定時期に基づき、国債の利率で割り引いた現在価値により算定する方法によっております。

(5) 支払手形及び買掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
(1) 現金及び預金	2,354,946	—	—	—
(2) 受取手形及び売掛金	969,903	—	—	—
(3) 有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券	—	—	50,000	—
合計	3,324,850	—	50,000	—

当連結会計年度(平成27年8月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	2,644,931	2,644,931	—
(2) 受取手形及び売掛金	849,859	849,859	—
(3) 有価証券及び投資有価証券			
① 満期保有目的の債券	50,000	50,560	560
② その他有価証券	27,047	27,047	—
(4) 差入保証金	273,526	272,546	△979
資産計	3,845,364	3,844,944	△419
(5) 支払手形及び買掛金	285,049	285,049	—
負債計	285,049	285,049	—

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

(1) 現金及び預金、並びに (2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価については、株式は取引所の価格、債券等については金融機関等からの提示額によっております。なお、Money Market Fundについては短期間で決済されるものである為、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

(4) 差入保証金

差入保証金の時価は、回収可能性を反映した将来キャッシュ・フローを合理的に見積もりをした差入保証金の返還予定時期に基づき、国債の利率で割り引いた現在価値により算定する方法によっております。

(5) 支払手形及び買掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
(1) 現金及び預金	2,644,931	—	—	—
(2) 受取手形及び売掛金	849,859	—	—	—
(3) 有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券	—	—	50,000	—
合計	3,494,790	—	50,000	—

(有価証券関係)

1 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成26年 8 月31日)

種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
時価が連結貸借対照表計上額 を超えるもの	50,000	50,695	695
時価が連結貸借対照表計上額 を超えないもの	—	—	—
合計	50,000	50,695	695

当連結会計年度(平成27年 8 月31日)

種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
時価が連結貸借対照表計上額 を超えるもの	50,000	50,560	560
時価が連結貸借対照表計上額 を超えないもの	—	—	—
合計	50,000	50,560	560

2 その他有価証券で時価のあるもの

前連結会計年度(平成26年 8 月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	—	—	—
債券	—	—	—
その他	—	—	—
小計	—	—	—
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	69,679	84,459	△14,780
債券	—	—	—
その他	23,152	24,034	△882
小計	92,832	108,494	△15,662
合計	92,832	108,494	△15,662

(注) 当連結会計年度において減損処理は行っておりません。なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、当該金額の重要性、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

当連結会計年度(平成27年8月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	—	—	—
債券	—	—	—
その他	27,047	24,036	3,010
小計	27,047	24,036	3,010
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	—	—	—
債券	—	—	—
その他	—	—	—
小計	—	—	—
合計	27,047	24,036	3,010

(注) 当連結会計年度において減損処理は行っておりません。なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、当該金額の重要性、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

3 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成25年9月1日 至 平成26年8月31日)

種類	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	—	—	—
その他	—	—	—
合計	—	—	—

当連結会計年度(自 平成26年9月1日 至 平成27年8月31日)

種類	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	90,200	5,740	—
その他	—	—	—
合計	90,200	5,740	—

(デリバティブ取引関係)

取引の状況に関する事項

前連結会計年度(自 平成25年9月1日 至 平成26年8月31日)

当社グループは、デリバティブ取引を利用しておりますが、当連結会計年度末においては該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成26年9月1日 至 平成27年8月31日)

当社グループは、デリバティブ取引を利用しておりますが、当連結会計年度末においては該当事項はありません。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成25年 9 月 1 日 至 平成26年 8 月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年 9 月 1 日 至 平成27年 8 月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	138,491千円	143,650千円
退職給付費用	20,753千円	22,568千円
退職給付の支払額	△15,594千円	△25,675千円
制度への拠出額	－千円	－千円
退職給付に係る負債の期末残高	143,650千円	140,542千円

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (平成26年 8 月31日)	当連結会計年度 (平成27年 8 月31日)
積立型制度の退職給付債務	－千円	－千円
年金資産	－千円	－千円
	－千円	－千円
非積立型制度の退職給付債務	143,650千円	140,542千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	143,650千円	140,542千円
退職給付に係る負債	143,650千円	140,542千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	143,650千円	140,542千円

(3) 退職給付費用

	前連結会計年度 (平成26年 8 月31日)	当連結会計年度 (平成27年 8 月31日)
簡便法で計算した退職給付費用	20,753千円	22,568千円

(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度(自 平成25年 9 月 1 日 至 平成26年 8 月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成26年 9 月 1 日 至 平成27年 8 月31日)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成26年 8 月31日)	当連結会計年度 (平成27年 8 月31日)
繰延税金資産(流動)		
未払事業税	6,717千円	9,088千円
未払事業所税	1,577千円	1,563千円
賞与引当金	30,562千円	19,590千円
貸倒引当金	104千円	114千円
その他有価証券評価差額金	313千円	－千円
未払費用	2,057千円	－千円
その他	13,338千円	4,772千円
合計	54,671千円	35,128千円
繰延税金負債(流動)		
その他有価証券評価差額金	－千円	△996千円
合計	－千円	△996千円
繰延税金資産(流動)の純額	54,671千円	34,132千円

	前連結会計年度 (平成26年 8 月31日)	当連結会計年度 (平成27年 8 月31日)
繰延税金資産(固定)		
役員退職慰労引当金	60,651千円	53,347千円
退職給付に係る負債	51,175千円	45,538千円
その他有価証券評価差額金	5,261千円	－千円
敷金償却費	8,422千円	10,420千円
減価償却費	347千円	250千円
その他	1,577千円	1,180千円
小計	127,436千円	110,738千円
控除：評価性引当金	△1,806千円	△1,668千円
合計	125,630千円	109,069千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前連結会計年度及び当連結会計年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)及び「地方税法等の一部を改正する法律(平成27年法律第2号)」が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率等の引き下げ等が行われることとなりました。これに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算(ただし、平成27年9月1日以降解消されるものに限る)に使用した法定実効税率は、前連結会計年度の35.6%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成27年9月1日から平成28年8月31日までのものは33.1%、平成28年9月1日以降のものについては32.3%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が12,774千円減少し、当連結会計年度に計上された法人税等調整額が12,849千円、その他有価証券評価差額金が75千円増加しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

前連結会計年度末(平成26年8月31日)及び当連結会計年度末(平成27年8月31日)

該当事項はありません。

なお、当社グループは本社等事務所の不動産賃借契約に基づき、事務所の退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、その計上は差入保証金を減額する方法によっております。

(賃貸等不動産関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、企業の広報活動の支援・コンサルティング業務を中心としたPR事業のみの単一セグメントであるため記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成25年9月1日 至 平成26年8月31日)

1 サービスごとの情報

単一のサービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	中国	その他	合計
3,767,686	1,232,235	455,988	5,455,910

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手がいないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 平成26年9月1日 至 平成27年8月31日)

1 サービスごとの情報

単一のサービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	中国	その他	合計
3,647,451	1,471,584	314,701	5,433,737

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
A社	569,561	PR事業

(注) A社との契約上守秘義務を負っているため、社名の公表は控えております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

当社グループは、単一セグメントとしているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自平成25年9月1日 至平成26年8月31日)及び当連結会計年度(自平成26年9月1日 至平成27年8月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

項目	前連結会計年度 (自 平成25年9月1日 至 平成26年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年9月1日 至 平成27年8月31日)
1株当たり純資産額	696円50銭	776円99銭
1株当たり当期純利益	80円15銭	97円78銭

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

2 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成26年8月31日現在)	当連結会計年度 (平成27年8月31日現在)
純資産の部の合計額(千円)	2,865,347	3,215,431
純資産の部の合計額から控除する金額(千円) 少数株主持分	81,918	110,353
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	2,783,429	3,105,078
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(千株)	3,996	3,996

3 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成25年9月1日 至 平成26年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年9月1日 至 平成27年8月31日)
1株当たり当期純利益		
当期純利益(千円)	320,307	390,744
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(千円)	320,307	390,744
普通株式の期中平均株式数(千株)	3,996	3,996

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

該当事項はありません。

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	1, 137, 541	2, 672, 831	3, 970, 634	5, 433, 737
税金等調整前四半期 (当期)純利益金額 (千円)	124, 998	364, 528	570, 689	746, 654
四半期(当期)純利益 金額 (千円)	55, 645	186, 041	299, 708	390, 744
1 株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	13. 92	46. 55	75. 00	97. 78

(会計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
1 株当たり四半期 純利益金額 (円)	13. 92	32. 63	28. 44	22. 78

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年 8 月31 日)	当事業年度 (平成27年 8 月31 日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,948,613	2,134,383
受取手形	19,712	24,921
売掛金	641,005	522,727
有価証券	23,152	27,047
未成業務支出金	51,496	51,525
貯蔵品	983	1,020
前払費用	25,688	37,909
繰延税金資産	51,313	30,003
その他	12,584	3,349
貸倒引当金	△48	△46
流動資産合計	2,774,501	2,832,843
固定資産		
有形固定資産		
建物	101,422	100,355
減価償却累計額	△33,560	△42,621
建物（純額）	67,862	57,734
機械、運搬具及び工具器具備品	63,109	62,056
減価償却累計額	△48,601	△48,253
機械、運搬具及び工具器具備品（純額）	14,507	13,802
有形固定資産合計	82,370	71,536
無形固定資産		
借地権	557	557
ソフトウエア	8,281	8,798
無形固定資産合計	8,838	9,355
投資その他の資産		
投資有価証券	119,679	50,000
関係会社株式	260,846	260,846
関係会社出資金	34,142	34,142
出資金	1,716	—
株主、役員又は従業員に対する長期貸付金	2,451	750
繰延税金資産	109,261	92,000
差入保証金	241,967	262,912
長期預金	44,215	20,000
その他	4,985	8,208
投資その他の資産合計	819,265	728,859
固定資産合計	910,473	809,751
資産合計	3,684,975	3,642,595

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年 8 月31日)	当事業年度 (平成27年 8 月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	70,604	31,774
買掛金	319,315	106,368
未払金	54,511	41,067
未払費用	63,207	40,812
未払法人税等	47,317	78,892
未払消費税等	13,798	59,360
未成業務受入金	92,356	66,171
預り金	29,389	12,537
賞与引当金	82,065	54,607
流動負債合計	772,566	491,591
固定負債		
退職給付引当金	138,381	134,011
役員退職慰労引当金	129,760	119,290
長期預り保証金	24,265	24,265
固定負債合計	292,407	277,567
負債合計	1,064,973	769,158
純資産の部		
株主資本		
資本金	470,783	470,783
資本剰余金		
資本準備金	374,437	374,437
資本剰余金合計	374,437	374,437
利益剰余金		
利益準備金	32,281	32,281
その他利益剰余金		
別途積立金	42,518	42,518
繰越利益剰余金	2,144,440	2,385,774
利益剰余金合計	2,219,240	2,460,574
自己株式	△434,373	△434,373
株主資本合計	2,630,088	2,871,422
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△10,086	2,013
評価・換算差額等合計	△10,086	2,013
純資産合計	2,620,001	2,873,436
負債純資産合計	3,684,975	3,642,595

②【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成25年 9 月 1 日 至 平成26年 8 月31日)	当事業年度 (自 平成26年 9 月 1 日 至 平成27年 8 月31日)
売上高	3,436,373	3,355,196
売上原価	2,493,205	2,465,383
売上総利益	943,168	889,812
販売費及び一般管理費		
役員報酬	87,090	86,955
従業員給料及び手当	169,795	164,199
従業員賞与	37,965	21,792
法定福利費	38,312	32,806
賞与引当金繰入額	20,954	20,247
退職給付費用	4,107	3,021
役員退職慰労引当金繰入額	7,930	7,530
減価償却費	5,924	6,262
地代家賃	43,334	41,725
支払報酬	21,442	21,826
事務用消耗品費	16,278	10,733
その他	137,433	125,954
販売費及び一般管理費合計	590,567	543,054
営業利益	352,600	346,757
営業外収益		
受取利息	156	142
有価証券利息	552	552
受取配当金	※1 96,494	※1 153,048
為替差益	—	116
経営指導料	※1 1,200	—
投資有価証券売却益	—	5,740
その他	2,500	2,660
営業外収益合計	100,903	162,261
営業外費用		
出資金運用損	1,637	1,692
為替差損	411	—
その他	100	—
営業外費用合計	2,149	1,692
経常利益	451,355	507,326
特別損失		
固定資産除却損	※2 511	※2 603
役員退職慰労金	35,060	—
訴訟関連損失	10,060	—
特別損失合計	45,632	603
税引前当期純利益	405,723	506,723
法人税、住民税及び事業税	48,545	117,496
法人税等調整額	83,000	32,000
法人税等合計	131,545	149,496
当期純利益	274,177	357,226

【売上原価明細書】

		前事業年度 (自 平成25年 9 月 1 日 至 平成26年 8 月31日)		当事業年度 (自 平成26年 9 月 1 日 至 平成27年 8 月31日)	
区分	注記 番号	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
I 労務費	※ 1	965,688	38.8	1,020,329	41.4
II 外注費		957,536	38.5	823,532	33.4
III 経費		565,121	22.7	621,551	25.2
当期総業務支出金		2,488,345	100.0	2,465,413	100.0
期首未成業務支出金		56,355		51,496	
合計		2,544,701		2,516,909	
期末未成業務支出金		51,496		51,525	
売上原価		2,493,205		2,465,383	

(脚注)

(原価計算の方法)

当社の原価計算は、プロジェクト別の個別原価計算であり、期中は予定原価を用い、原価差額は期末において未成業務支出金及び売上原価に配賦しております。

※ 1 経費の主な内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成25年 9 月 1 日 至 平成26年 8 月31日)	当事業年度 (自 平成26年 9 月 1 日 至 平成27年 8 月31日)
地代家賃	58,730千円	31,334千円
支払手数料	167,566千円	132,195千円
旅費交通費	32,230千円	25,701千円
資料費	85,495千円	106,014千円

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成25年 9 月 1 日 至 平成26年 8 月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	470,783	374,437	374,437	32,281	42,518	1,978,162	2,052,962
当期変動額							
剰余金の配当						△107,899	△107,899
当期純利益						274,177	274,177
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)							
当期変動額合計	—	—	—	—	—	166,277	166,277
当期末残高	470,783	374,437	374,437	32,281	42,518	2,144,440	2,219,240

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△434,373	2,463,810	△16,813	△16,813	2,446,996
当期変動額					
剰余金の配当		△107,899			△107,899
当期純利益		274,177			274,177
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)			6,727	6,727	6,727
当期変動額合計	—	166,277	6,727	6,727	173,005
当期末残高	△434,373	2,630,088	△10,086	△10,086	2,620,001

当事業年度(自 平成26年 9 月 1 日 至 平成27年 8 月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	470,783	374,437	374,437	32,281	42,518	2,144,440	2,219,240
当期変動額							
剰余金の配当						△115,892	△115,892
当期純利益						357,226	357,226
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)							
当期変動額合計	—	—	—	—	—	241,334	241,334
当期末残高	470,783	374,437	374,437	32,281	42,518	2,385,774	2,460,574

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△434,373	2,630,088	△10,086	△10,086	2,620,001
当期変動額					
剰余金の配当		△115,892			△115,892
当期純利益		357,226			357,226
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)			12,100	12,100	12,100
当期変動額合計	—	241,334	12,100	12,100	253,434
当期末残高	△434,373	2,871,422	2,013	2,013	2,873,436

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) 満期保有目的の債券

原価法を採用しております。

(3) その他有価証券

(時価のあるもの)

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

(時価のないもの)

移動平均法による原価法を採用しております。

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 未成業務支出金

個別法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用しております。

(2) 貯蔵品

最終仕入原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用しております。

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

建物(附属設備を除く)については定額法、その他の有形固定資産については定率法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3～15年

器具備品 4～15年

取得価額が10万円以上20万円未満の一括償却資産については、法人税法の規定に基づき3年間で均等償却しております。

(2) 無形固定資産

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

4 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

5 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額の当期負担額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

6 その他財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理については、税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

該当事項はありません。

(貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(損益計算書関係)

※1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 平成25年9月1日 至 平成26年8月31日)	当事業年度 (自 平成26年9月1日 至 平成27年8月31日)
受取配当金	93,829千円	151,305千円
経営指導料	1,200千円	一千円

※2 固定資産除却損の内訳は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成25年9月1日 至 平成26年8月31日)	当事業年度 (自 平成26年9月1日 至 平成27年8月31日)
建物	491千円	467千円
器具備品	20千円	135千円
計	511千円	603千円

(有価証券関係)

前事業年度(平成26年8月31日現在)

子会社株式(貸借対照表計上額 関係会社株式260,846千円)は、市場価格がありません。したがって、時価を把握することが極めて困難と認められることから記載しておりません。

当事業年度(平成27年8月31日現在)

子会社株式(貸借対照表計上額 関係会社株式260,846千円)は、市場価格がありません。したがって、時価を把握することが極めて困難と認められることから記載しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成26年 8 月31日)	当事業年度 (平成27年 8 月31日)
繰延税金資産(流動)		
未払事業税	5,089千円	7,106千円
未払事業所税	1,577千円	1,563千円
賞与引当金	29,215千円	18,075千円
その他有価証券評価差額金	313千円	－千円
未払費用	2,057千円	－千円
その他	13,060千円	4,254千円
合計	51,313千円	31,000千円
繰延税金負債(流動)		
その他有価証券評価差額金	－千円	△996千円
合計	－千円	△996千円
繰延税金資産(流動)の純額	51,313千円	30,003千円
	前事業年度 (平成26年 8 月31日)	当事業年度 (平成27年 8 月31日)
繰延税金資産(固定)		
退職給付引当金	49,263千円	43,285千円
役員退職慰労引当金	46,194千円	38,530千円
その他有価証券評価差額金	5,261千円	－千円
敷金償却費	8,422千円	10,420千円
減価償却費	347千円	250千円
その他	885千円	522千円
小計	110,375千円	93,010千円
控除：評価性引当金	△1,113千円	△1,010千円
合計	109,261千円	92,000千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成26年 8 月31日)	当事業年度 (平成27年 8 月31日)
法定実効税率 (調整)	38.0%	35.6%
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.6	0.3
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△7.5	△9.0
法定実効税率変更による影響額	1.5	2.4
その他	△0.2	0.2
税効果会計適用後の法人税等の負担率	32.4	29.5

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)及び「地方税法等の一部を改正する法律(平成27年法律第2号)」が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率等の引き下げ等が行われることとなりました。これに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算(ただし、平成27年9月1日以降解消されるものに限る)に使用した法定実効税率は、前事業年度の35.6%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成27年9月1日から平成28年8月31日までのものは33.1%、平成28年9月1日以降のものについては32.3%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が11,713千円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が11,788千円、その他有価証券評価差額金が75千円増加しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

④ 【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	減価償却 累計額又は 償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高(千円)
有形固定資産							
建物	101,422	—	1,067	100,355	42,621	9,660	57,734
器具備品	63,109	6,358	7,411	62,056	48,253	6,927	13,802
有形固定資産計	164,532	6,358	8,479	162,411	90,874	16,588	71,536
無形固定資産							
借地権	557	—	—	557	—	—	557
ソフトウェア	25,336	5,067	—	30,403	21,604	4,549	8,798
無形固定資産計	25,893	5,067	—	30,960	21,604	4,549	9,355

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金(注)	48	46	—	48	46
賞与引当金	82,065	54,607	82,065	—	54,607
退職給付引当金	138,381	21,306	25,675	—	134,011
役員退職慰労引当金	129,760	7,530	18,000	—	119,290

(注) 貸倒引当金の当期減少額(その他)は、一般債権の貸倒実績率に基づく洗替額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	9月1日から8月31日まで
定時株主総会	11月中
基準日	8月31日
剰余金の配当の基準日	2月末日、8月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	_____
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告 (注)
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 1 電子公告により、当社ホームページ (<http://www.prap.co.jp/>) に掲載いたします。ただし、不測の事態により電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

2 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。

会社法第189条第2項各号に掲げる権利

会社法第166条第1項の規定による請求をする権利

株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第44期(自 平成25年9月1日 至 平成26年8月31日)平成26年11月27日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

事業年度 第44期(自 平成25年9月1日 至 平成26年8月31日)平成26年11月27日関東財務局長に提出

(3) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書
平成26年12月4日関東財務局長に提出

(4) 四半期報告書及び確認書

第45期第1四半期(自 平成26年9月1日 至 平成26年11月30日)平成27年1月14日関東財務局長に提出

第45期第2四半期(自 平成26年12月1日 至 平成27年2月28日)平成27年4月14日関東財務局長に提出

第45期第3四半期(自 平成27年3月1日 至 平成27年5月31日)平成27年7月14日関東財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成27年11月26日

株式会社ブラップジャパン
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 秋 山 茂 盛 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 田 中 量 ㊞

＜財務諸表監査＞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ブラップジャパンの平成26年9月1日から平成27年8月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ブラップジャパン及び連結子会社の平成27年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ブラップジャパンの平成27年8月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社ブラップジャパンが平成27年8月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成27年11月26日

株式会社ブラップジャパン
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 秋 山 茂 盛 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 田 中 量 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ブラップジャパンの平成26年9月1日から平成27年8月31日までの第45期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ブラップジャパンの平成27年8月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】

内部統制報告書

【根拠条文】

金融商品取引法第24条の4の4第1項

【提出先】

関東財務局長

【提出日】

平成27年11月26日

【会社名】

株式会社プラップジャパン

【英訳名】

PRAP Japan, Inc.

【代表者の役職氏名】

代表取締役社長 鈴木 勇 夫

【最高財務責任者の役職氏名】

—

【本店の所在の場所】

東京都港区赤坂一丁目12番32号 アーク森ビル

【縦覧に供する場所】

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役社長鈴木勇夫は、当社の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について(意見書)」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用している。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものである。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である平成27年8月31日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠した。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制(全社的な内部統制)の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定している。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行った。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、会社及び連結子会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定した。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、会社及び連結子会社5社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定した。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、各事業拠点の前連結会計年度の売上高(連結会社間取引消去後)の金額が高い拠点から合算していき、前連結会計年度の連結売上高の概ね2/3に達している事業拠点を「重要な事業拠点」とした。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、売掛金及び棚卸資産に至る業務プロセスを評価の対象とした。

3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断した。

4 【付記事項】

該当事項はありません。

5 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年11月26日
【会社名】	株式会社ブラップジャパン
【英訳名】	PRAP Japan, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 鈴木 勇 夫
【最高財務責任者の役職氏名】	—
【本店の所在の場所】	東京都港区赤坂一丁目12番32号 アーク森ビル
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長である鈴木勇夫は、当社の第45期(自 平成26年9月1日 至 平成27年8月31日)の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。